

男女共同参画社会をめざした市民意識調査  
報 告 書

平成20年3月  
尼 崎 市



# 目 次

調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査方法	1
3 調査項目	1
4 調査内容	2
5 調査票の回収結果	2
調査結果の考察	3
調査結果	9
1 回答者の属性	9
2 男女の人権の尊重と女性に対する暴力の根絶	16
(1) ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害経験と対応	16
(2) ドメスティック・バイオレンス(DV)に関する相談機関の認知	19
(3) セクシュアル・ハラスメントの被害経験と対応	20
(4) 市報等における性別が固定化されない表現配慮	21
3 社会の制度・慣行等の見直し	22
(1) 男女の平等感	22
(2) 「男は仕事、女は家事・育児」への同意	25
(3) 男女共同参画に関する言葉の認知	26
(4) 今後必要なこと	29
(5) 結婚の考え方	31
(6) 社会生活の負担感	32
4 ワーク・ライフ・バランスの確立	33
(1) 子育てで重視すること	33
(2) 子育ての考え方	36
(3) 子どもに受けさせたい教育程度	37
(4) 高齢になった時の身の回りの世話の希望	38
(5) 家庭での役割分担	39
(6) 好ましい仕事と家庭の関わり方	42
(7) ワーク・ライフ・バランスの考え方への同意	45
(8) 育児休業・介護休業の取得	46
(9) 地域活動・グループ活動	48
(10) 男性の家事、地域活動等への参画による変化	49
5 女性の生涯にわたる健康の確保	50
(1) 女性の健康を守るために必要なこと	50

自由意見.....	53
1 記入状況 .....	53
2 代表的な意見 .....	54
資料編	
・集計表	
・調査票	

# 調査の概要

## 1 調査の目的

本市では、平成 17 年 12 月に制定した「尼崎市男女共同参画社会づくり条例」の理念を具体化し、男女共同参画促進施策等を総合的かつ計画的に実施していくための行動計画として、平成 19 年 4 月に「尼崎市男女共同参画計画」を策定した。本調査は、この「尼崎市男女共同参画計画」の初年度における市民意識を把握するとともに、今後の施策展開の基礎資料とするものである。

## 2 調査方法

調査対象 市内に居住する 20 歳以上の男女  
 標本数 3,000 人（男女各 1,500 人） 性別年代別に無作為抽出  
 調査手法 郵送配布、郵送回収（お礼状兼督促状 1 回配布）  
 調査時期 平成 19 年 10 月

## 3 調査項目

「尼崎市男女共同参画計画」の施策体系をもとに調査項目を設定した。

基本目標	方針	質問内容	問番号
1 男女の人権の尊重と 女性に対する 暴力の根絶	女性に対する あらゆる暴力の根絶と 自立支援	DVの被害経験と対応	問 1 6
		DVに関する相談機関の認知	問 1 7
		セクシュアル・ハラスメントの被害経験と対応	問 1 8
	メディアにおける 女性の人権尊重	市報等における性別が固定化されない表現配慮	問 1 5
2 社会の制度・慣行等の 見直し	社会における 男女共同参画の推進	男女の平等感	問 1
		「男は仕事、女は家事・育児」への同意	問 6
		男女共同参画に関する言葉の認知	問 1 3
		今後必要なこと	問 1 4
		結婚の考え方	問 2 0
4 ワーク・ライフ・ バランスの確立	家庭と仕事の 両立支援	社会生活の負担感	問 2 1
		子育てで重視すること	問 2
		子育ての考え方	問 3
		子どもに受けさせたい教育程度	問 4
		高齢になった時の身の回りの世話の希望	問 5
		家庭での役割分担	問 7
		好ましい仕事と家庭の関わり方	問 8
		ワークライフバランスの考え方への同意	問 9
	まちづくりへの 男女共同参画の促進	育児休業・介護休業の取得	問 1 0
		地域活動・グループ活動	問 1 1
5 女性の生涯にわたる 健康の確保	性と生殖の健康・権利に 関する意識の浸透	男性の家事、地域活動等への参画による変化	問 1 2
		女性の健康を守るために必要なこと	問 1 9

#### 4 調査内容

巻末調査票参照

#### 5 調査票の回収結果

有効回収票 1,088 票（女性 661 票、男性 408 票、性別不明 19 票）

回収率 36.3%（女性 44.1%、男性 27.2%）

表 1 - 1 回収票の年齢構成

		20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上	不明	計
女性	票数	63	120	100	136	125	116	1	661
	構成比	9.5%	18.2%	15.1%	20.6%	18.9%	17.5%	0.2%	100.0%
男性	票数	28	69	65	71	87	88	-	408
	構成比	6.9%	16.9%	15.9%	17.4%	21.3%	21.6%	0.0%	100.0%
計	票数	91	189	165	207	212	205	19	1,088
	構成比	8.4%	17.4%	15.2%	19.0%	19.5%	18.8%	1.7%	100.0%

表 1 - 2 母集団の年齢構成

		20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上	計
女性	人数	27,344	37,193	27,132	31,535	32,328	39,150	194,682
	構成比	14.0%	19.1%	13.9%	16.2%	16.6%	20.1%	100.0%
男性	人数	27,595	39,322	28,761	32,104	30,717	26,054	184,553
	構成比	15.0%	21.3%	15.6%	17.4%	16.6%	14.1%	100.0%
計	人数	54,939	76,515	55,893	63,639	63,045	65,204	379,235
	構成比	14.5%	20.2%	14.7%	16.8%	16.6%	17.2%	100.0%

# 調査結果の考察

## 回答者の属性

### 女性対男性の割合は6対4

前回調査等においても女性の回収率が男性の回収率よりも高い傾向がみられるが、今回は女性の回収率が44.1%、男性の回収率が27.2%（前は女性58.6%、男性44.5%）と、その傾向が顕著となった。回答者の性別割合は、女性が6割、男性が4割である。男女の合計の集計結果には、女性の意見がより強く反映されている可能性がある。

### 女性は20代「常勤（フルタイム）」、30代「家事専従」、50代「パート・アルバイト」

男性は20代から50代で「常勤（フルタイム）」が最も多いのに対して、女性は20代で「常勤（フルタイム）」、30代で「家事専従」、40代で「常勤（フルタイム）」及び「パート・アルバイト」、50代で「パート・アルバイト」が最も多い。子どもの成長など、家庭の状況が女性の職業形態に影響を与えていることがうかがえる。

### 男性の8割は「生活費を得るため」に働く

男性の働いている理由は「生活費を得るため（自分の収入がないと生活できない）」が8割（女性は5割）、「働くことは当然である」が5割（女性は3割）であり、男性の方が女性よりも家庭の収入の柱であるとの認識を強く持つ傾向がある。

## 基本目標にかかる概要

### 基本目標1 男女の人権の尊重と女性に対する暴力の根絶

#### 女性のDV被害は「何度もあった」が「暴言や無視」で7.9%、「身体に対する暴行」で5.6%

ドメスティック・バイオレンス（DV）について、「暴言や無視」が「何度もあった」のは、女性で7.9%、男性で2.7%、「身体に対する暴行」が「何度もあった」のは女性で5.6%、男性で1.0%である。何らかのDVを受けたことのある人の対応は、「だれにも相談しなかった」が女性で5割、男性で6割であり、自分で問題を抱え込んでいる状況がうかがえる。

#### 知っているDVの相談機関は「警察」が7割、「弁護士・弁護士会」が4割

知っているDVの相談機関や窓口について、一般的に広く問題解決の手段として認識されている「警察」、「弁護士・弁護士会」の回答が多い。一方、DVを専門的に扱う他の相談機関の認知度は高いとは言えない。DVを受けたことがある人が問題を抱え込んでいる状況と考え合わせると、心理的なハードルが低い相談機関の認知度を向上させる必要がある。

#### 職場でセクシュアル・ハラスメントの被害にあったことがある人は女性で1割

セクシュアル・ハラスメントについて、「職場で被害にあったことがある」人は女性で11.5%、男性で2.9%である。学校、職場、地域の中で被害にあったことがある人の対応は、

「だれにも相談しなかった」が4割、「家族や友人に相談した」が4割である。セクシュアル・ハラスメントもまた、公的な相談窓口や苦情処理機関への相談が少ない点が課題である。

## 基本目標2 社会の制度・慣行等の見直し

### 8項目中で最も不平等感が高い「職場（賃金・昇進）」の分野

8項目の分野のうち、「職場（賃金・昇進）」は男女で平等でないとの回答（「あまり平等でない」と「平等でない」の計）が7割（女性8割、男性7割）であり、前回調査から大きく改善していない。社会生活を営む上で基盤となる分野で、依然として大きな課題を抱えている。また、女性だけでなく男性も性別による不平等を認識していることが分かる。

### 特に女性が不平等を感じている「家庭生活」、「法律や制度」、「政治・経済の分野」

女性の不平等感が男性の不平等感を大きく上回っているのが「家庭生活」、「法律や制度」、「政治・経済の分野」であり、いずれも性別で20ポイント以上の差がある。「法律や制度」、「政治・経済の分野」はいずれも、日々の生活に表れ難く、多くの場面で不平等を感じる側である女性が、男性よりも敏感である面が表れたものとみられる。一方、「家庭生活」においては、日々の家事等について、男女で平等の捉え方が異なることがうかがえる。

### 「男は仕事、女は家事・育児」への同意は50代までと60代以上とで差が大きい

「男は仕事、女は家事・育児」への同意は、全体では同意が6割と、不同意（4割）を上回っているものの、年代で考え方の違いが大きい。50代まででは同意が46.9%、不同意が52.5%と不同意が同意を上回るのに対して、60代以上では同意が71.9%と不同意（25.0%）よりも40ポイント以上多い。

### 「性同一性障害」、「ドメスティック・バイオレンス」の意味や内容を知っている人が7割

「性同一性障害」及び「ドメスティック・バイオレンス」の意味や内容を知っている人が7割であり、「ドメスティック・バイオレンス」については前回調査から59.7ポイント増加している（「性同一性障害」は前回調査で設問なし）。一方で「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」、「尼崎市男女共同参画計画」、「尼崎市男女共同参画社会づくり条例」、「男女共同参画社会基本法」の認知度は低く、市民への情報提供を推進する必要がある。

### 今後必要とされている「子育て、介護支援サービス」、「育児休業・介護休業の取得」

男女が対等なパートナーとして、ともに家庭での役割を担い、社会のあらゆる分野に参加・参画していくために必要なことは、「子育て、介護支援サービス」が最も多く、次いで「育児休業・介護休業の取得」である。ライフサイクルの中で大きな出来事である子育て、介護の負担を軽減することと、子育て、介護の時期でも仕事を継続できることが重要であることが分かる。

また、子育て、介護に関することに次いで、「女性の経済力や知識・技術」が多く、女性のエンパワメントの必要性も認識されている。



「結婚は個人の自由であるから、必ずしも結婚しなくてもよい」、「結婚してもうまいかなければ、離婚してやり直す方がよい」いずれも同意が7割

「結婚は個人の自由であるから、必ずしも結婚しなくてもよい」について、「そう思う」または「ややそう思う」が7割（女性7割、男性6割）であり、「結婚しなくてもうまいかなければ、離婚してやり直す方がよい」について、「そう思う」または「ややそう思う」が7割（女性8割、男性7割）と、いずれの考えも同意が多く、結婚が個人的な事柄であると考えられていることがうかがえる。

社会生活を送る上で大変なことは「経済力が求められること」が8割

社会生活を送る上で「大変だと感じる」または「どちらかという大変だと感じる」が最も多いのは「経済力が求められること」で男女ともに8割であり、男女ともに負担感が高いことが分かる。「家事の負担」は、女性の方が男性よりもやや大変だと感じている。

#### 基本目標4 ワーク・ライフ・バランスの確立

男の子の場合に重視する「活発さ」、「責任感」、「勇気」

子育てで「活発さ」、「責任感」、「勇気」を重視する割合は、男の子の場合の方が女の子の場合よりも多く、19ポイントから25ポイントもの差がある。一方で、「素直さ」を重視する割合は、女の子の場合の方が男の子の場合よりも12.2ポイント多い。子どもの頃から性別によって異なる育て方がなされ、男の子には「男らしい」と考えられている性質がより強く期待されていることがうかがえる。

「男女区別せず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てるのがよい」に同意9割

「男女区別せず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てるのがよい」への同意は男女ともに9割である。性別にとらわれず、その子らしく育てる意識が広がっている一方で、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」への同意は女性で7割、男性で8割である。いずれにも同意している人も多く、2つの考え方が相反しないものと捉えられており、社会的性別（ジェンダー）の理解が広がっていないことが分かる。

教育程度「四年制大学」の希望は男の子の場合は7割、女の子の場合は5割

男の子に受けさせたい教育程度は、「四年制大学」が68.1%（前回62.9%）であるのに対して、女の子の場合は「四年制大学」が45.8%（前回27.1%）、「短大・高専」が25.1%（前回38.2%）である。前回と比較すると、女の子の場合の「四年制大学」が大きく増加しているものの、依然として男の子と女の子とで異なる方針の人もみられる。

高齢になった時の世話は「配偶者」、「社会福祉施設やケア住宅に入所」の希望が6割

寝たきりや認知症になった時の身の回りの世話の希望は、「配偶者」が6割、「社会福祉施設やケア住宅に入所」が6割、「ホームヘルパーやボランティア」が5割である。社会的支援が上位にきており、介護の社会化が進展していることが分かる。また、男性の方が「配偶者」を希望する割合が高く、また、「娘」の希望が4割であるのに対して「息子」の希望が2割であり、女性が世話をする側として期待されている面もある。

### 家庭の仕事の多くが、理想は「夫婦共同」、現実は「主に妻」

家庭の仕事11項目の分担について、「理想」は7項目で「夫婦共同」が多く、「現実」は9項目で「主に妻」が多い。男女ともに理想と現実とのギャップがあり、理想のように夫婦共同でしたくてもできない背景には、男性の働き方、男性の家事等の能力などの課題が想定される。

### 好ましい仕事と家庭の関わり方は、女性はどちらかといえば家庭、男性はどちらかといえば仕事

女性の好ましい仕事と家庭の関わり方は「どちらかといえば家庭を優先する」が6割と最も多いのに対して、男性は「どちらかといえば仕事を優先する」が5割と最も多く、性別による違いが顕著であり、性別役割分担意識が根強いことがうかがえる。

### ワークライフバランスの考え方への同意が7割

「男性が家庭生活を充実させ、家庭と仕事の両立を図るためには、仕事中心のライフスタイルを変える方がよい」との考え方への同意が7割あり、男性の働き方を見直す必要性が意識されていることが分かる。男性の好ましい仕事と家庭の関わり方を「仕事と家庭に同程度にかかわる」としている人も、男性の20代から50代などでは3割から4割であり、仕事を優先する考え方が強い男性の60代以上と傾向が異なる。

### 介護休業の取得は「夫も妻も同程度に取るのがよい」が7割

介護休業の取得については、「夫も妻も同程度に取るのがよい」が7割、育児休業の取得については「どちらかといえば妻が取る方がよい」が4割、「夫も妻も同程度に取るのがよい」が3割である。特に介護休業については、男女が同程度に取得することが理想とされている。ただし現実には、男女とも介護休業、育児休業のいずれも「どちらも取得できない/できなかった」が最も多く、実際に取得する段階では課題が多いと考えられる。

### 現在、地域活動・グループ活動をしていない人が女性で5割、男性で6割

現在、地域活動・グループ活動をしていない人が女性で5割、男性で6割であるが、今後については活動意欲がみられ、「教養や趣味の活動」をしたい人が女性で4割、男性で3割である。

### 男性が家事、地域活動等へ参画すると「家庭における夫婦や親子の絆が深まる」

男性が、家事、子育てや教育、介護、地域活動などに参画した場合の変化について、「家庭における夫婦や親子の絆が深まる」が7割（女性7割、男性6割）、「地域におけるつながりが深まる」が5割（男女とも5割）などの変化が期待されている。全体的に女性の方が肯定的な評価をする傾向がある。

## 基本目標5 女性の生涯にわたる健康の確保

### 女性の健康を守るために学習機会、企業等への啓発、相談事業、性教育のいずれも必要

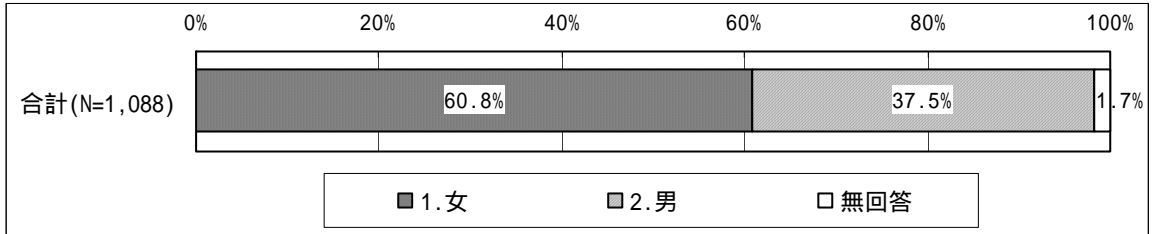
女性の健康を守るために必要なことについて、「男性も含めた学習機会の充実」、「企業や事業所に対する啓発」、「相談事業の充実」、「学校での性教育の充実」のいずれも「必要だ」と「やや必要だ」とを合わせて8割である。「男性も含めた学習機会の充実」は男性の方が女性よりも必要性を感じている。



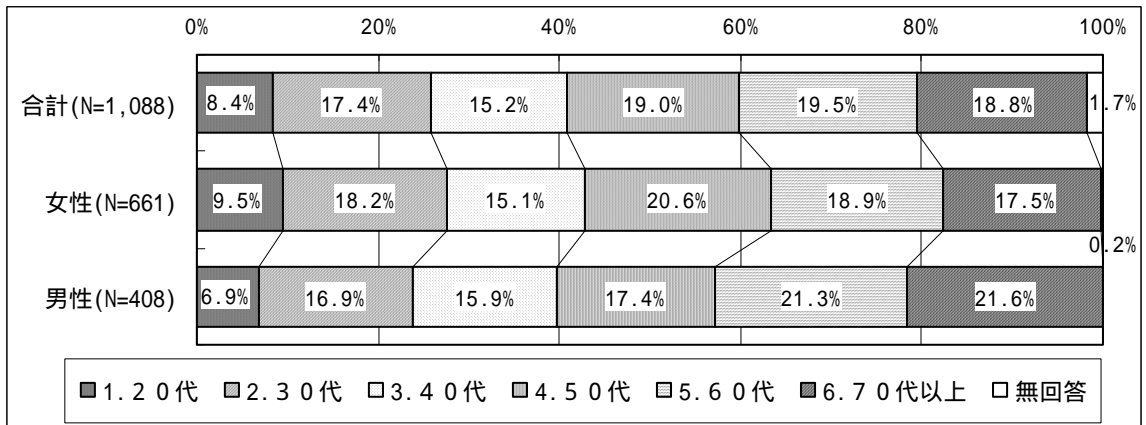
# 調査結果

## 1 回答者の属性

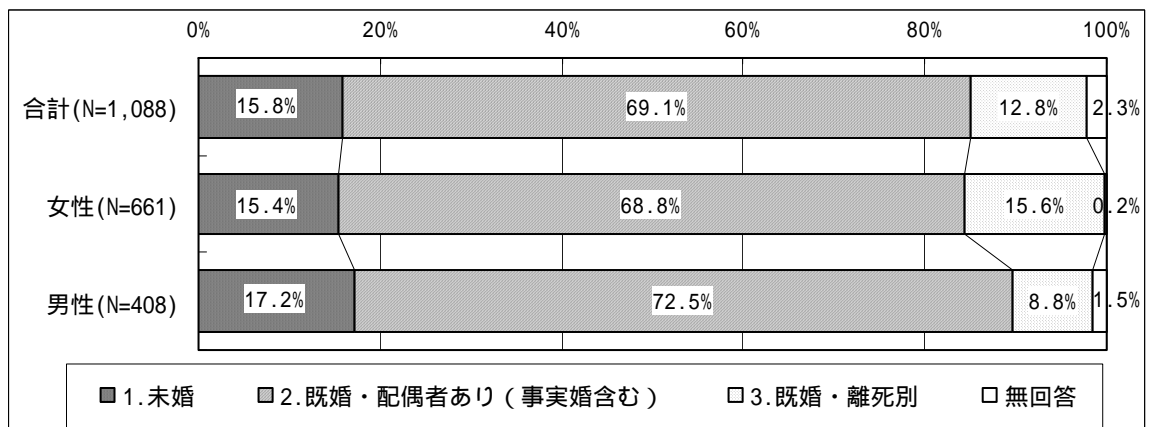
### ア 性別



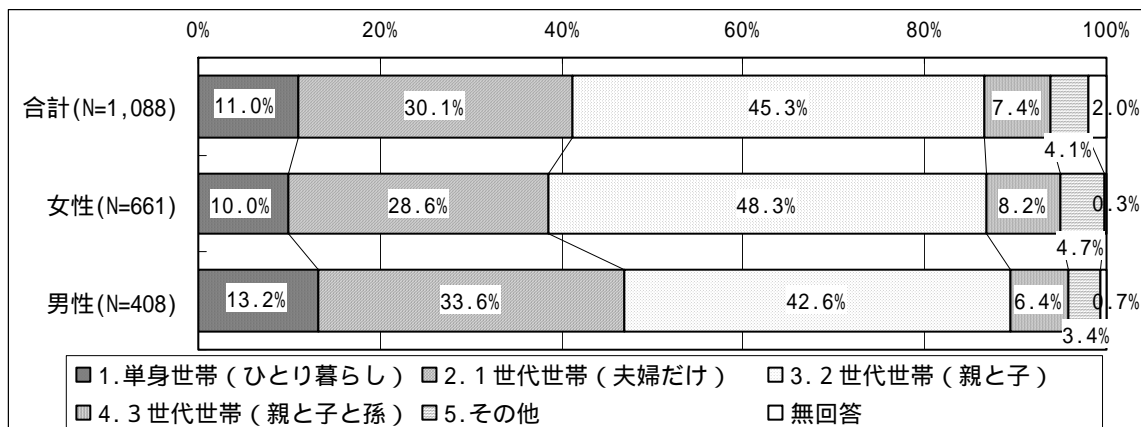
### イ 年代



### ウ 結婚

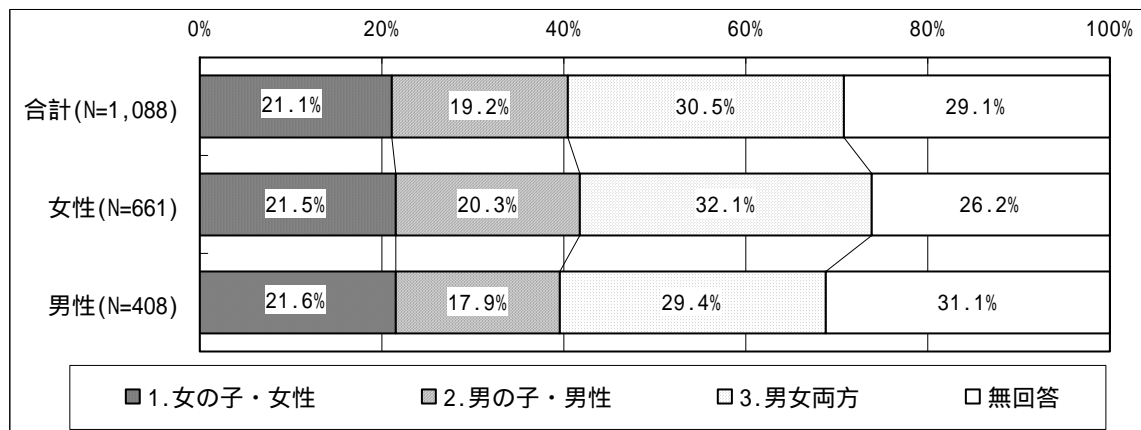


## エ 家族

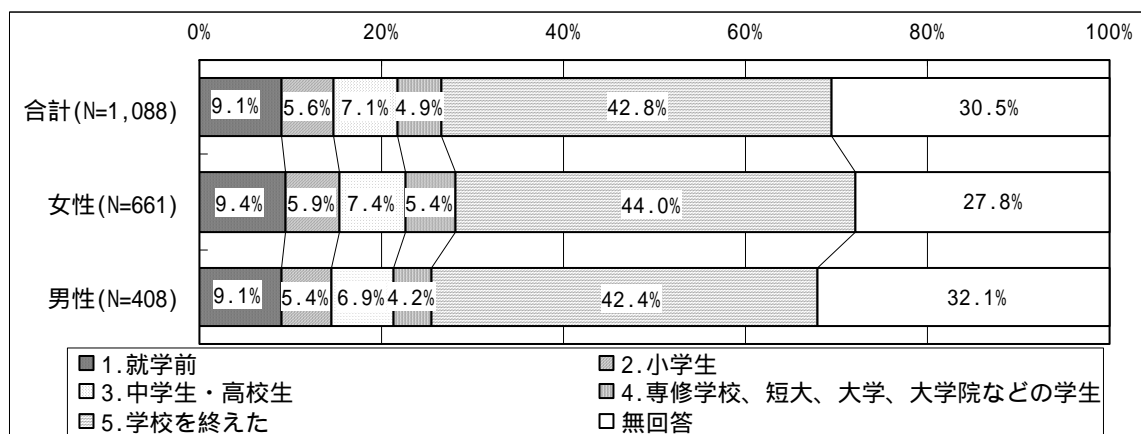


## オ 子ども

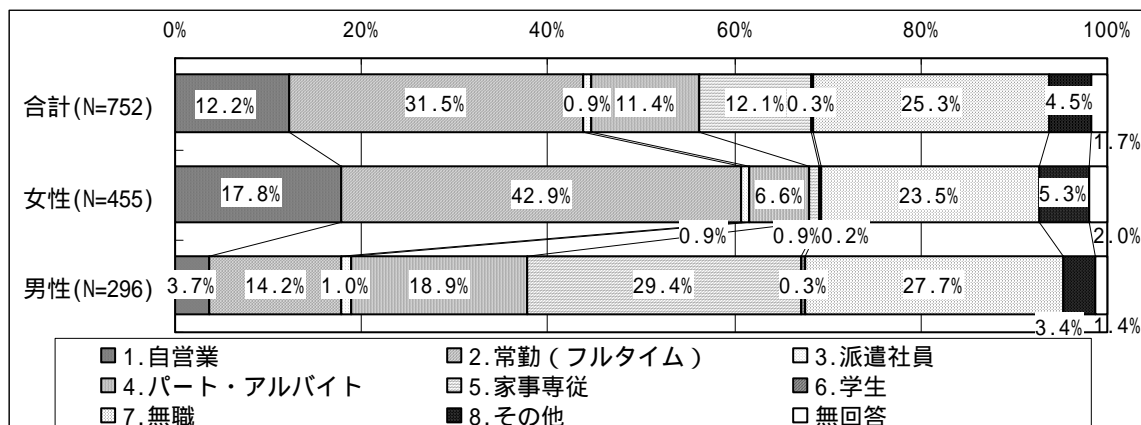
### (ア) 子どもの性別



### (イ) 一番下の子どもの年代

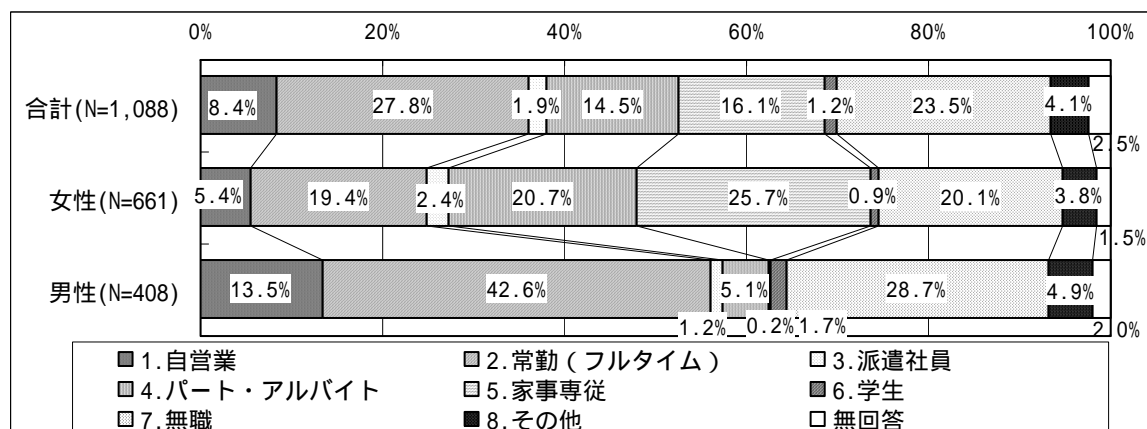


## カ 配偶者の仕事



## キ 仕事

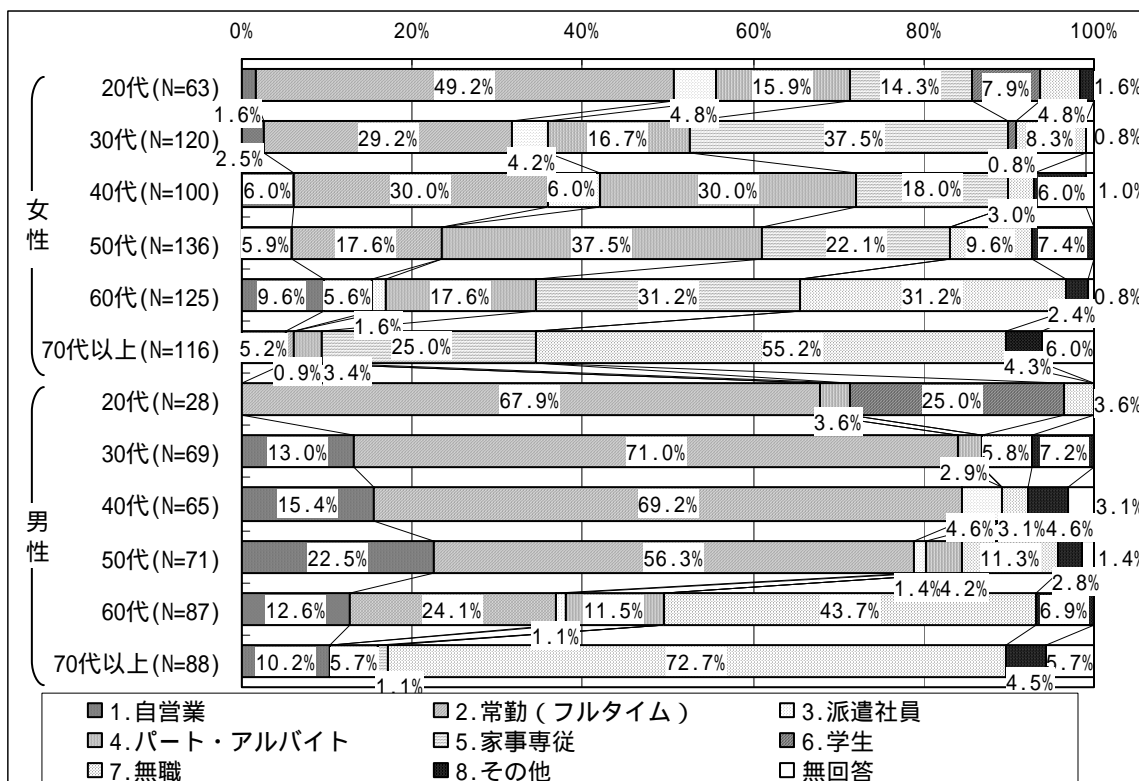
### (ア) 仕事



全体では、「常勤 (フルタイム)」が3割であり、職業を持っている人を合わせると5割である。

性別にみると、職業を持っている人が女性で48.0%、男性で62.4%である。女性は「家事専従」が25.7%と最も多く、男性は「常勤 (フルタイム)」が42.6%と最も多い。

< 性別・年齢別 >

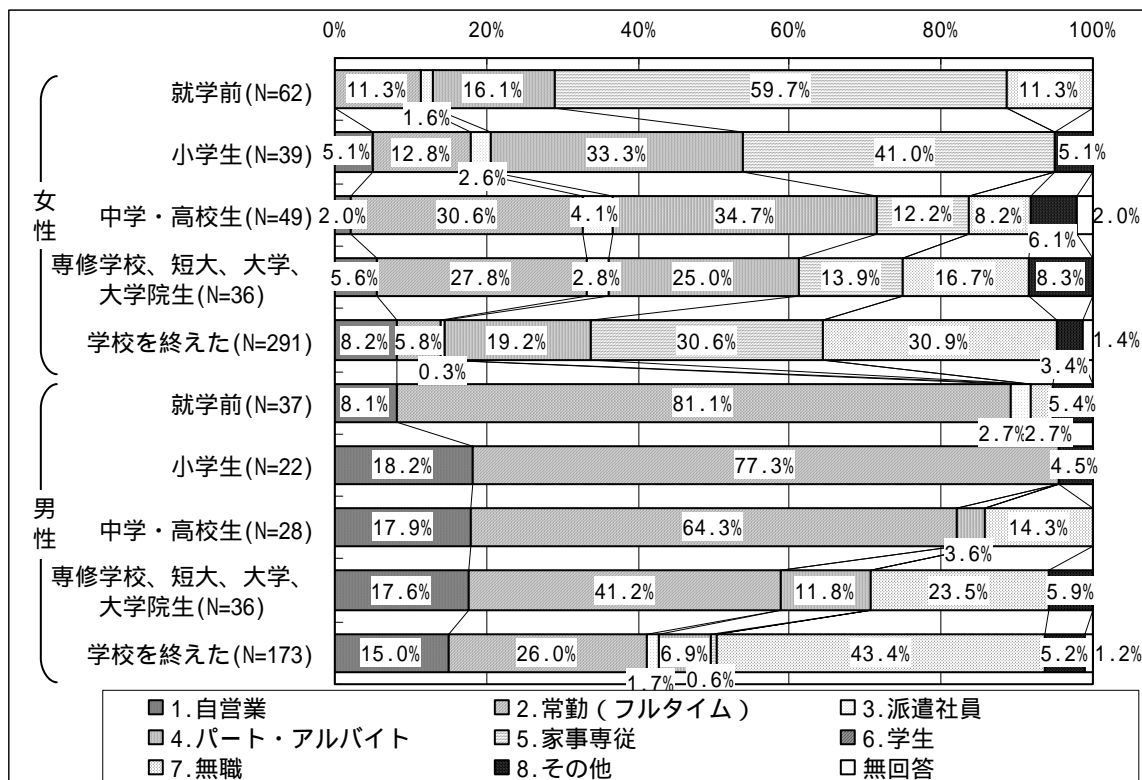


性別・年齢別にみると、女性で最も多いのは、20代で「常勤(フルタイム)」(49.2%)、30代で「家事専従」(37.5%)、40代で「常勤(フルタイム)」及び「パート・アルバイト」(30.0%)、50代で「パート・アルバイト」(37.5%)、60代で「家事専従」及び「無職」(31.2%)、70代以上で「無職」(55.2%)である。

男性は20代から50代で「常勤(フルタイム)」が最も多く、60代及び70代以上では「無職」が最も多い。



< 子どもの年齢別 >

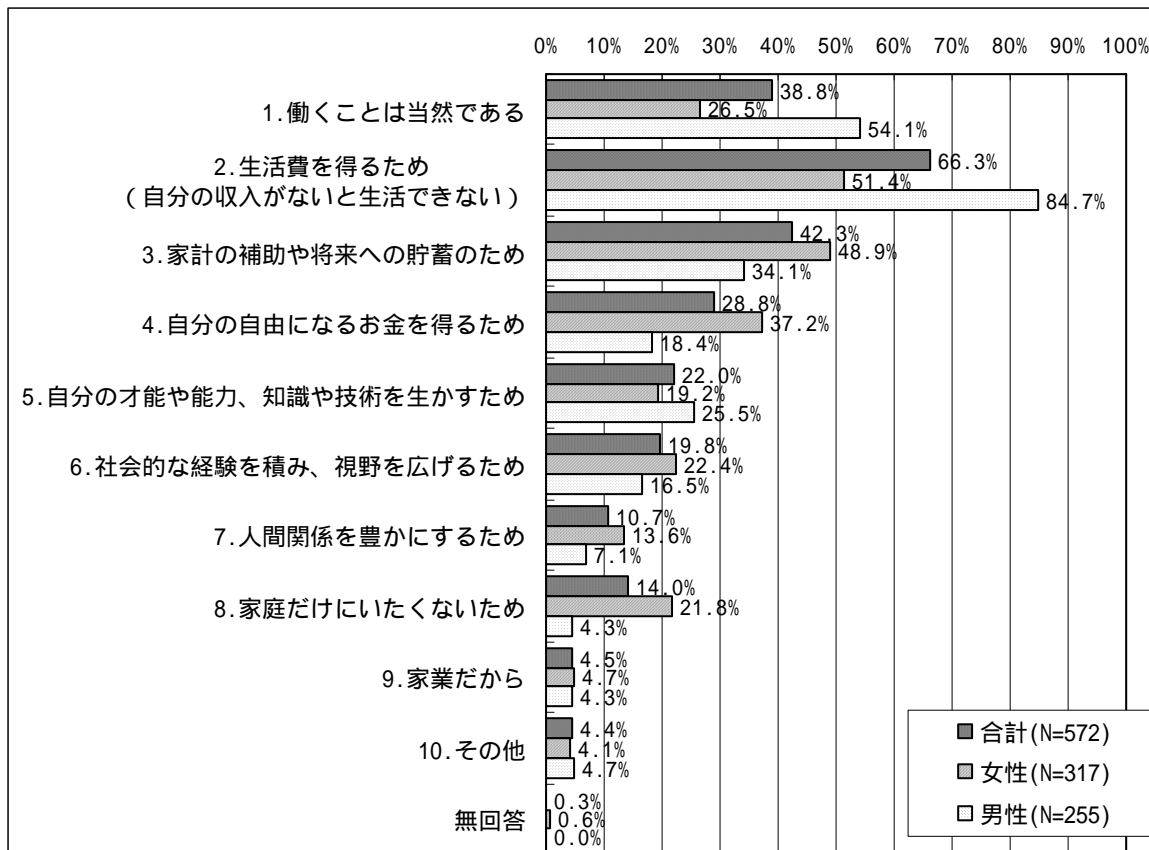


子どもの年齢別でみると、「就学前」及び「小学生」の子どもを持つ女性では「家事専従」が最も多く、「中学・高校生」では「パート・アルバイト」が最も多い。

一方、男性は「就学前」から「専修学校、短大、大学、大学院生」を通して「常勤(フルタイム)」が最も多い。

(イ) 働いている理由 (複数回答)

(アで「自営業」、「常勤(フルタイム)」、「派遣社員」、「パート・アルバイト」と回答した方)

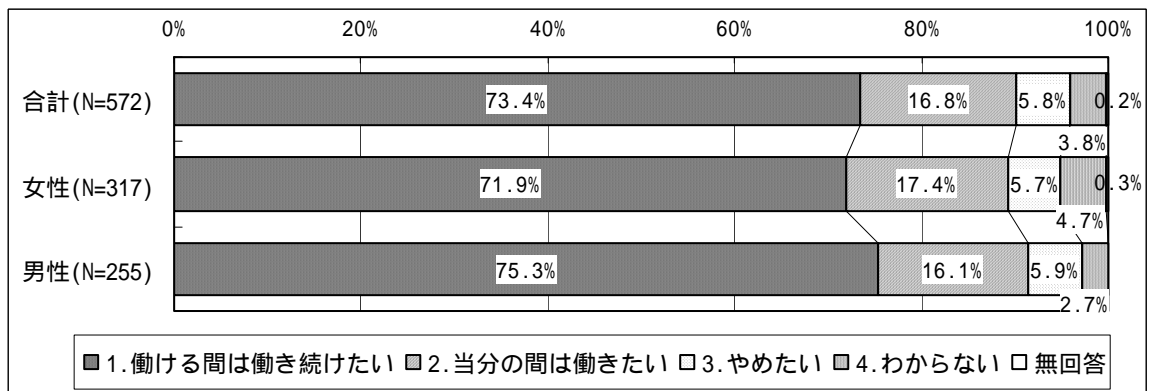


全体では、「生活費を得るため(自分の収入がないと生活できない)」が最も多い。

性別にみても、男女いずれも「生活費を得るため(自分の収入がないと生活できない)」が最も多いが、男性が84.7%であるのに対して、女性が51.4%と30ポイント以上の差がある。「自分の自由になるお金を得るため」、「家庭だけにいたくないため」などは、女性の回答が男性の回答よりも多い。

(ウ) 仕事をもち続けたいか

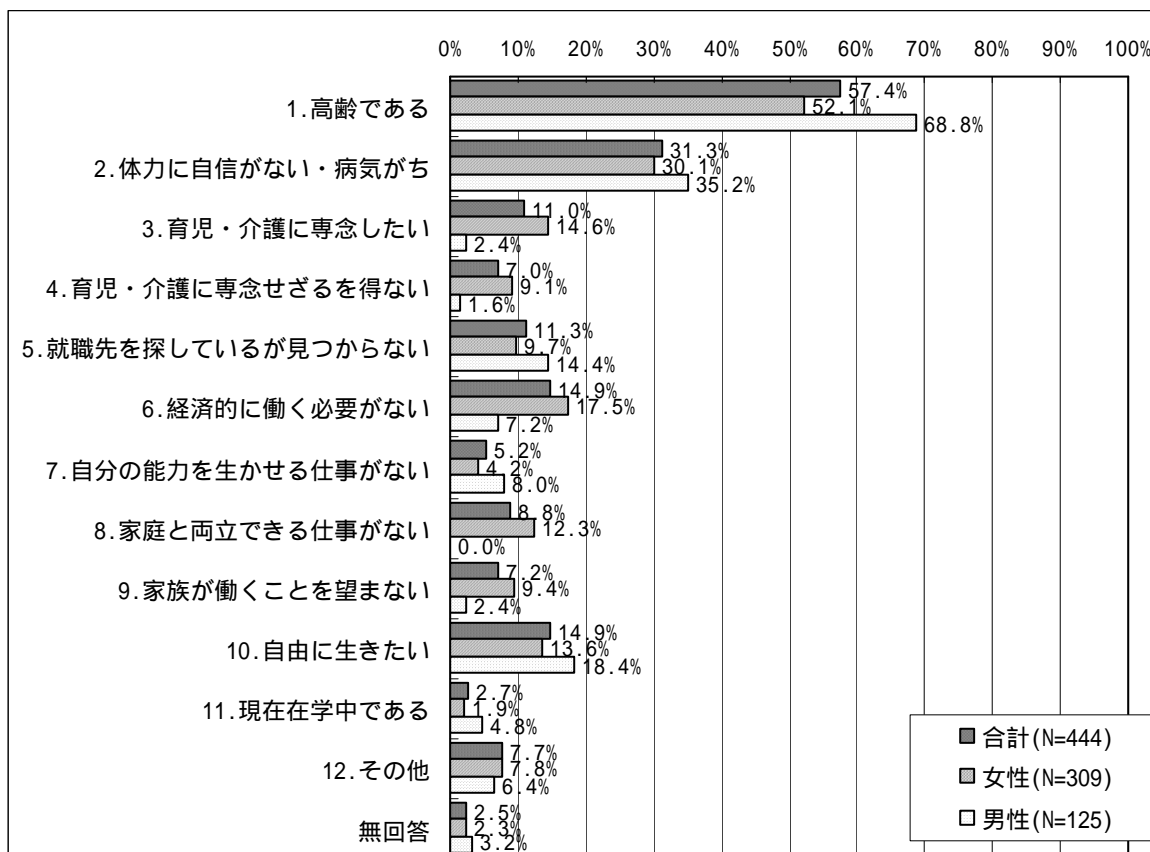
(アで「自営業」、「常勤(フルタイム)」、「派遣社員」、「パート・アルバイト」と回答した方)



男女ともに働き続ける意思のある人が9割である。

(エ) 働いていない理由 (複数回答)

(アで「家事専従」、「学生」、「無職」と回答した方)

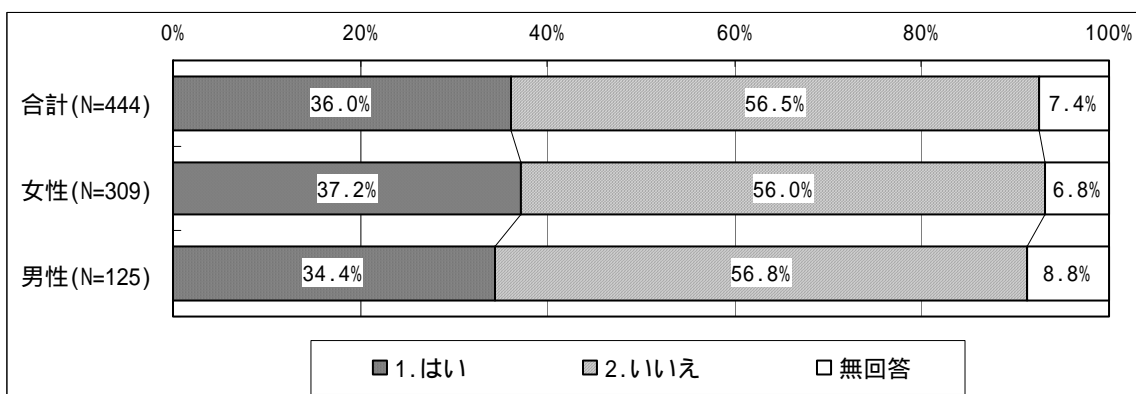


全体では、「高齢である」が最も多い。

性別にみると、「家庭と両立できる仕事がない」、「育児・介護に専念したい」、「経済的に働く必要がない」はいずれも女性の回答が男性の回答よりも10ポイント以上多い。

(オ) 仕事をもちたいか

(アで「家事専従」、「学生」、「無職」と回答した方)



仕事をもちたい人は女性が37.2%、男性が34.4%である。

## 2 男女の人権の尊重と女性に対する暴力の根絶

### (1) ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害経験と対応

問16 ドメスティック・バイオレンス(DV)についてうかがいます。

配偶者や恋人などからの暴力について、あなた自身の経験をうかがいます。それぞれの項目について、あてはまる選択肢の番号に1つをつけてください。

婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者や元恋人も含まれます。

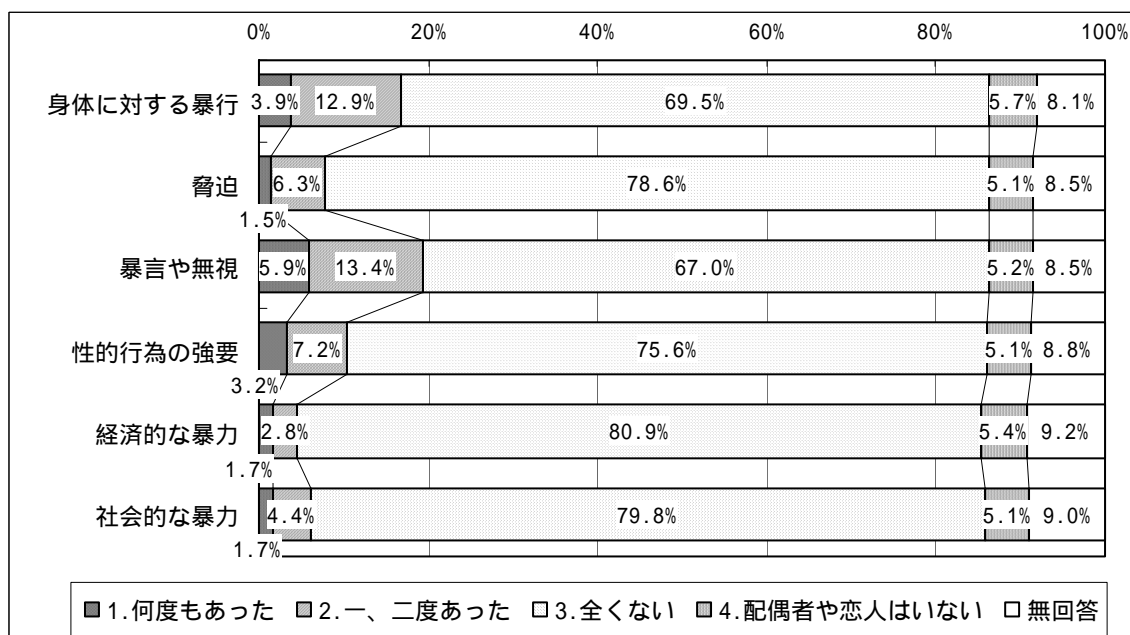
<項目>下記グラフでは項目を要約

なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた  
 あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた  
 人格を否定するような暴言や無視するなどの精神的いやがらせを受けた  
 いやがっているのに性的な行為を強要された  
 生活費を渡さない、妻が仕事に就くことを禁じるなどの経済的な暴力を受けた  
 交友関係を細かく禁止するなどの社会的な暴力を受けた

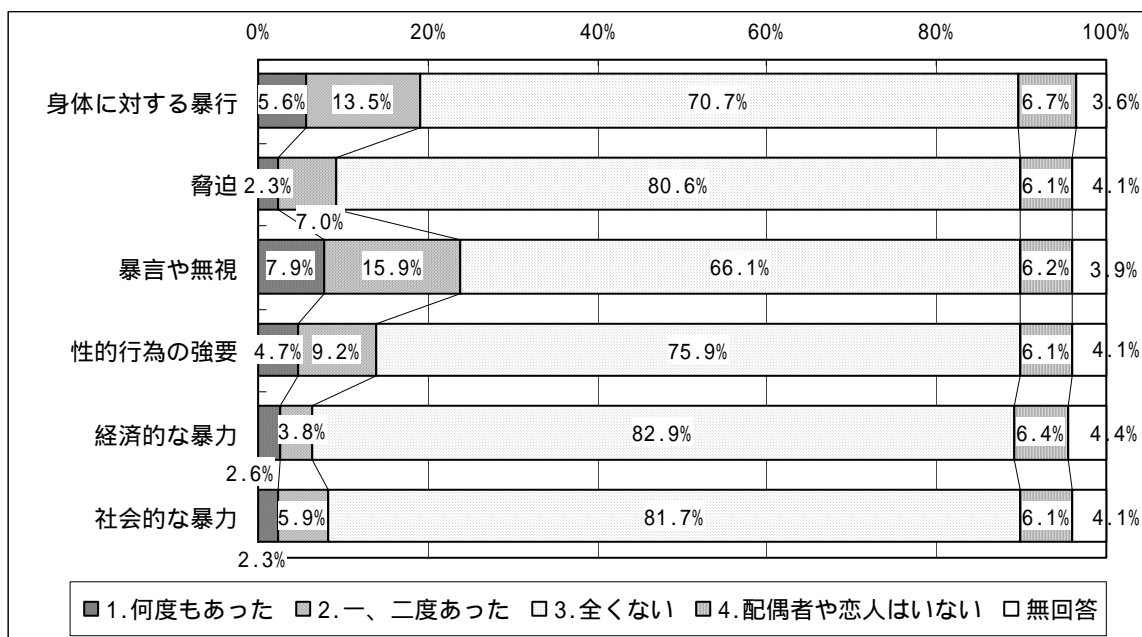
(付問) 上の質問で「何度もあった」または「1、2度あった」と回答した方にうかがいます。配偶者や恋人などから受けた行為について、だれかに相談しましたか。あてはまる選択肢の番号にすべてをつけてください。

#### ア ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害経験

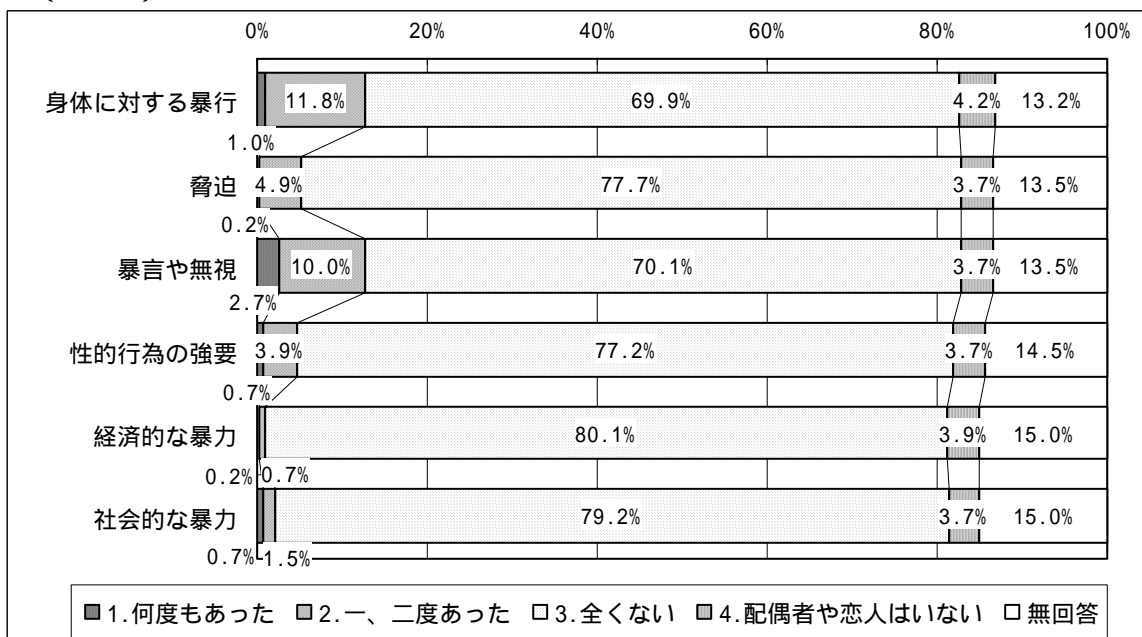
全体(N=1,088)



女性 (N=661)



男性 (N=408)

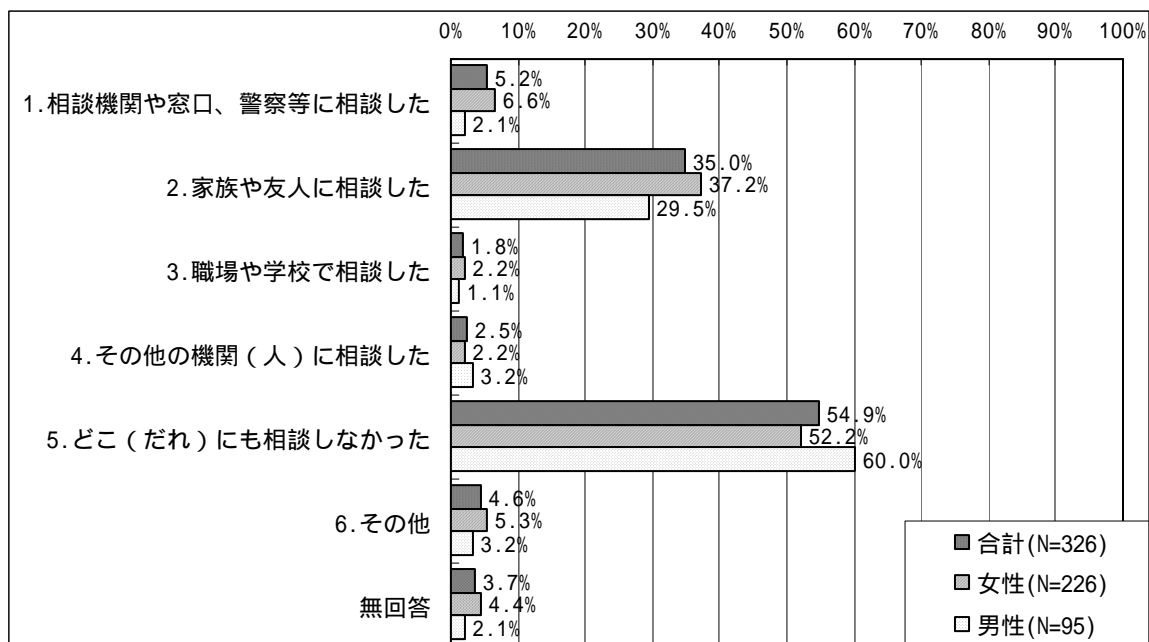


全体では、「何度もあった」が「暴言や無視」で 5.9%、「身体に対する暴行」で 3.9%、「性的行為の強要」が 3.2%である。

性別にみると、女性では、「何度もあった」が「暴言や無視」で 7.9%、「身体に対する暴行」で 5.6%、「性的行為の強要」で 4.7%と、それぞれ男性よりも 5.2 ポイント、4.6 ポイント、4.0 ポイント多い。

なお、 から のうち、何らかの暴力が「何どもあった」人は、全体で 9.3%、女性 12.3%、男性で 4.4%であり、何らかの暴力が「何どもあった」または「一、二度あった」人は、全体で 30.0%、女性で 34.2%、男性で 23.3%である。

## イ ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害後の対応

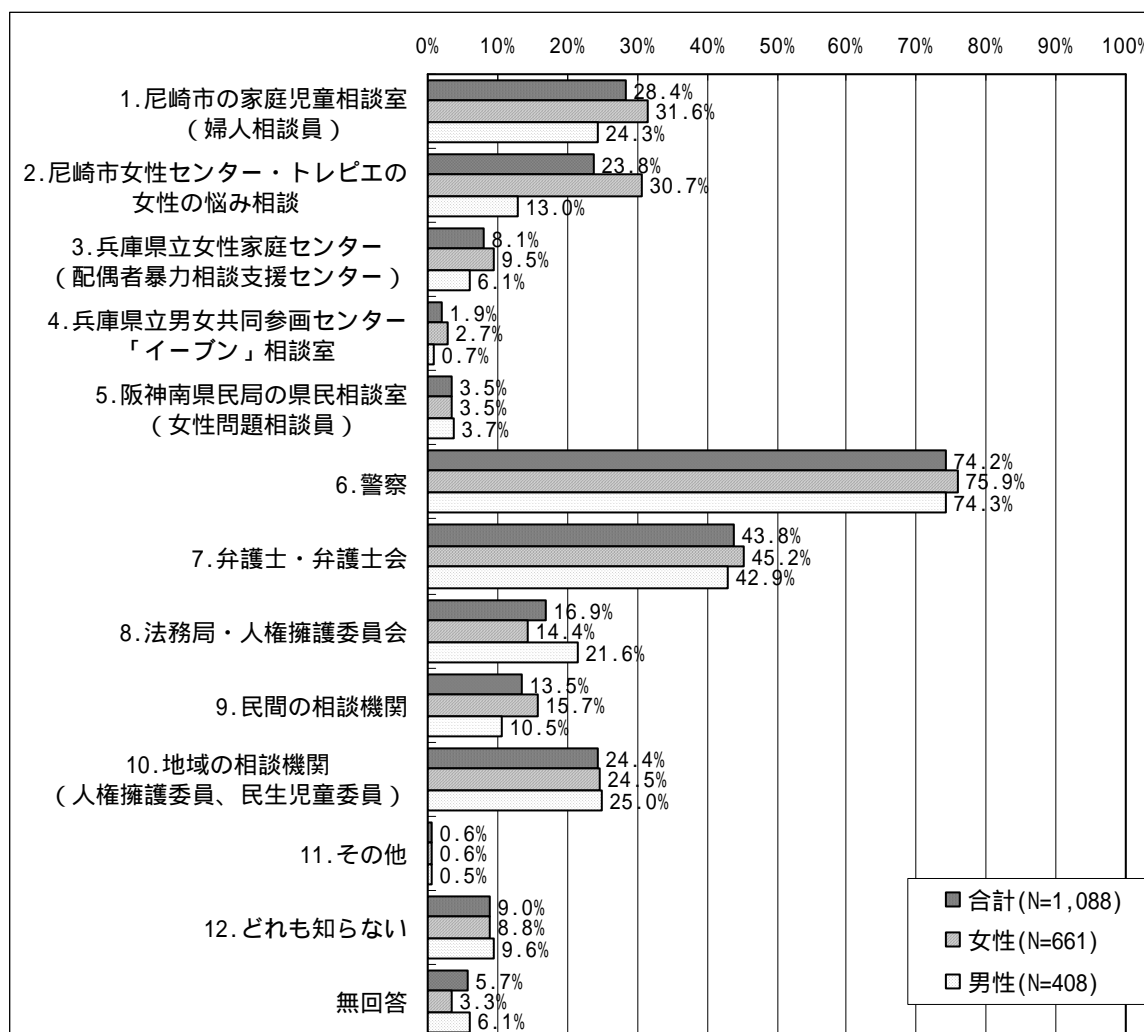


全体では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が54.9%と最も多く、次いで「家族や友人に相談した」が35.0%である。

性別にみると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男性で60.0%であるのに対して、女性で52.2%と7.8ポイントの差があり、「家族や友人に相談した」は女性で37.2%であるのに対して、男性で29.5%と7.7ポイントの差がある。

## (2) ドメスティック・バイオレンス(DV)に関する相談機関の認知

問17 あなたやまわりの方が配偶者や恋人などからの暴力の被害にあわれたとき、どのような相談機関や窓口があるかご存知ですか。知っている機関や窓口の選択肢の番号にすべてをつけてください。



全体では、「警察」が74.2%と最も多く、次いで「弁護士会」が43.8%である。「尼崎市の家庭児童相談室(婦人相談員)」、「地域の相談機関(人権擁護委員、民生児童委員)」及び「尼崎市女性センター・トレピエの女性の悩み相談」も2割以上である。

性別にみると、男女ともに「警察」が最も多く、次いで「弁護士・弁護士会」である。

### ポイント

DV被害者がだれにも相談できずに自分で問題を抱え込んでいる状況がみられるが、必要な人が支援を受けられるよう、相談にあたって心理的なハードルが低いと考えられる相談機関を広く周知することが重要である。

### (3) セクシュアル・ハラスメントの被害経験と対応

問18 セクシュアル・ハラスメント についてうかがいます。

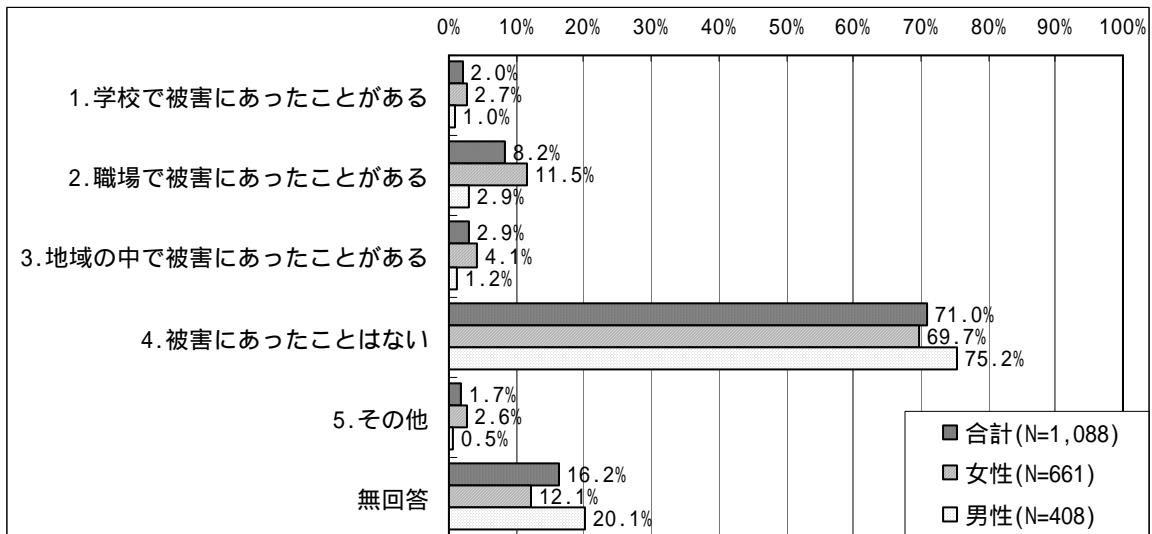
セクシュアル・ハラスメントの例としては、身体への不必要な接触やしつこい誘い、視線を浴びせる行為、身体的な特徴を話題にすることや性的な発言をすることなどがあります。

あなた自身がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことはありますか。あてはまる選択肢の番号にすべてをつけてください。

(付問) 上の質問で「被害にあったことがある」と回答した方にうかがいます。

セクシュアル・ハラスメントの被害について、どのような対応をしましたか。あてはまる選択肢の番号にすべてをつけてください。

#### ア セクシュアル・ハラスメントの被害経験



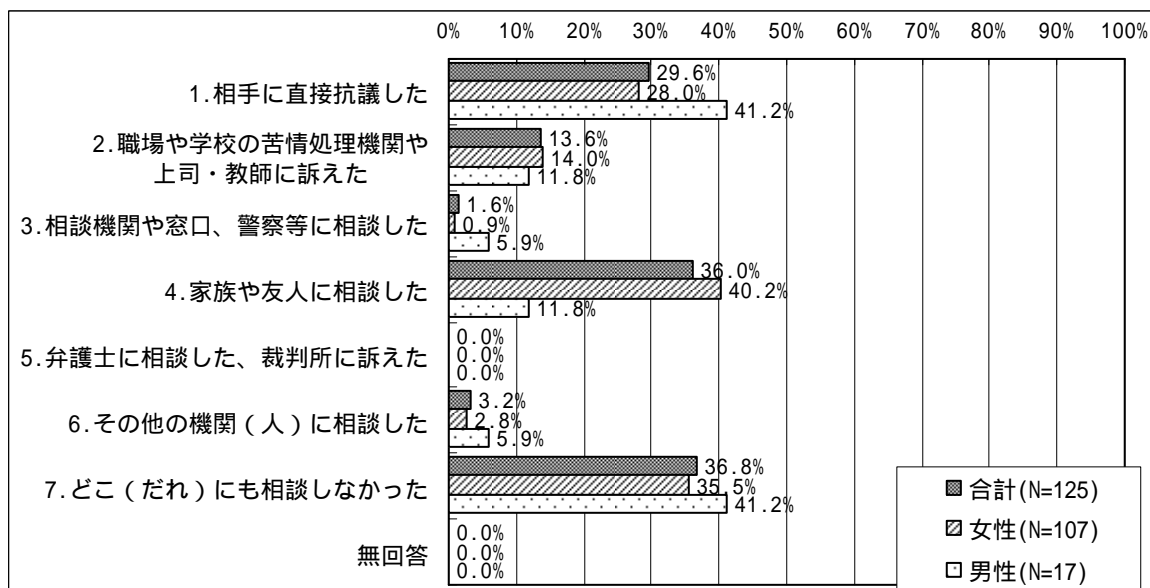
全体では、「被害にあったことはない」が71.0%と最も多い。

性別にみると、女性では「職場で被害にあったことがある」が11.5%と男性よりも8.6ポイント多い。また、女性は「地域の中で被害にあったことがある」が4.1%、「学校で被害にあったことがある」が2.7%である。

なお、女性の60代以上及び男性で無回答の出現率が高いが、無回答を除いて算出すると、「職場で被害にあったことがある」は全体で9.8%、女性で13.1%、男性で3.7%である。



## イ セクシュアル・ハラスメントの被害後の対応



全体では、「だれにも相談しなかった」が36.8%と最も多い。

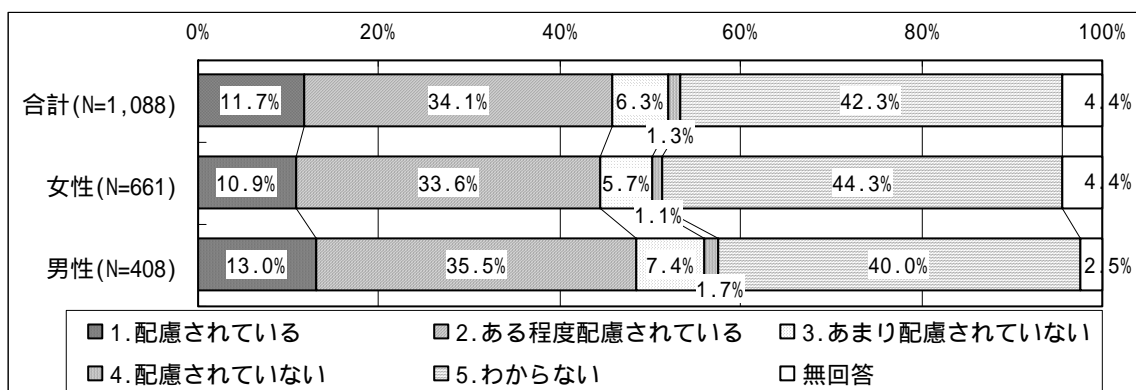
性別にみると、「家族や友人に相談した」は女性で40.2%であるのに対して、男性で11.8%と28.4ポイントの差がある。

### ポイント

セクシュアル・ハラスメントの被害後の対応として、相談機関や苦情処理機関への相談が多いとは言えず、これらの周知が必要である。

## (4) 市報等における性別が固定化されない表現配慮

問15 尼崎市の市報や発行物、ホームページなどの内容は、全体的にみて、男女の役割が固定化されないよう配慮されていると思いますか。あなたの考えに一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。



全体では、「わからない」が42.3%と最も多い。また、「配慮されている」と「ある程度配慮されている」を合わせて45.8%、「あまり配慮されていない」と「配慮されていない」を合わせて7.6%である。

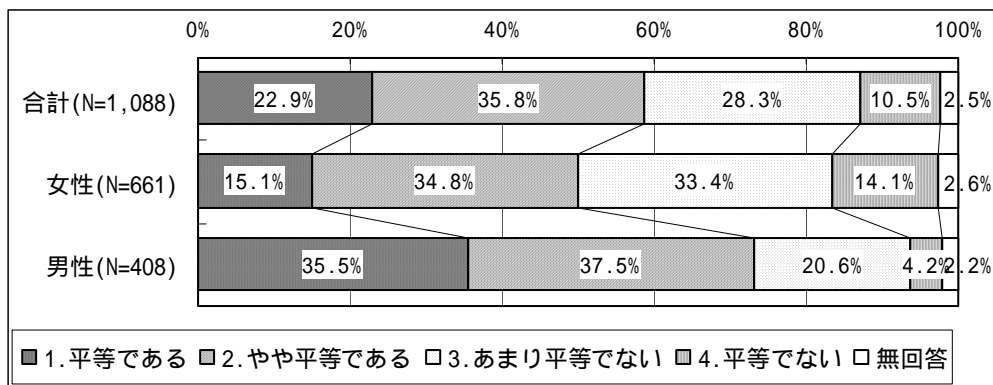
性別にみると、男女ともに「わからない」が最も多い。

### 3 社会の制度・慣行等の見直し

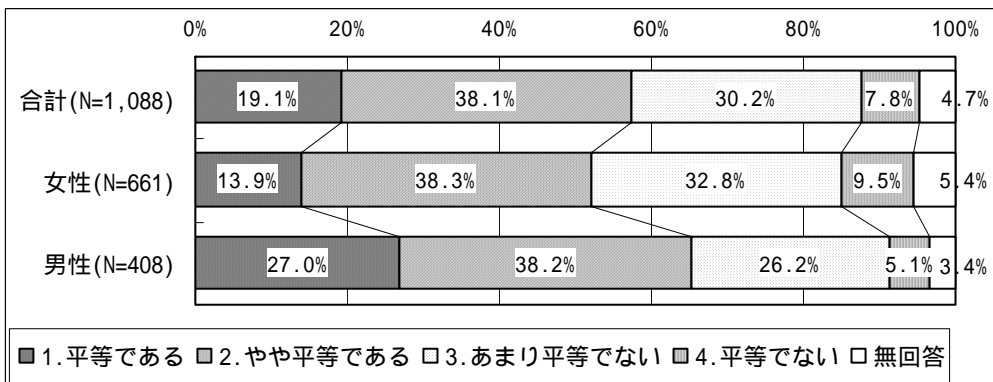
#### (1) 男女の平等感

問1 次の各分野において、男女はどの程度平等だと思いますか。それぞれの項目について、あなたの考えに一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。

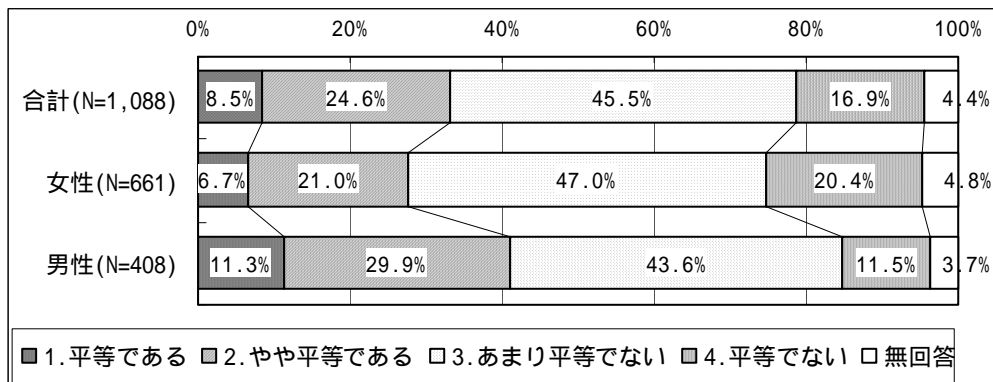
##### 家庭生活



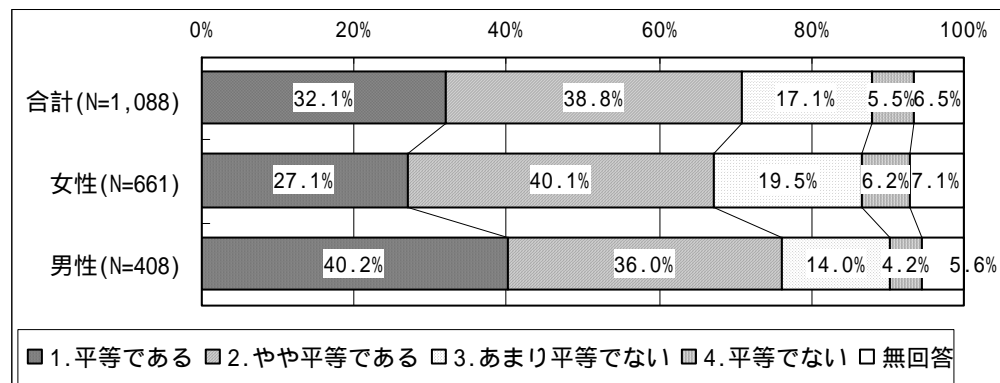
##### 地域活動



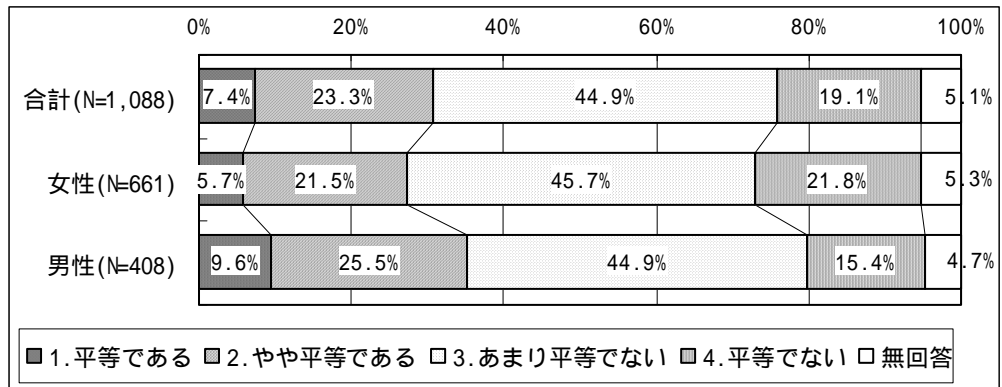
##### 社会通念やしきたり等



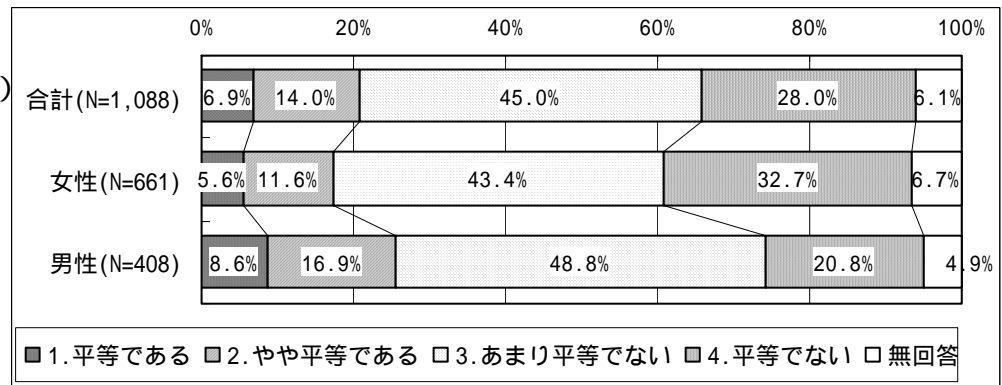
##### 学校 (教育の場)



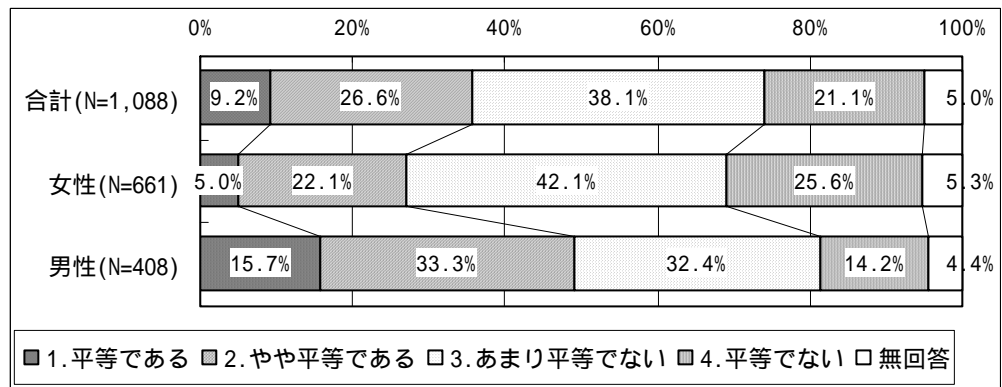
就職・雇用



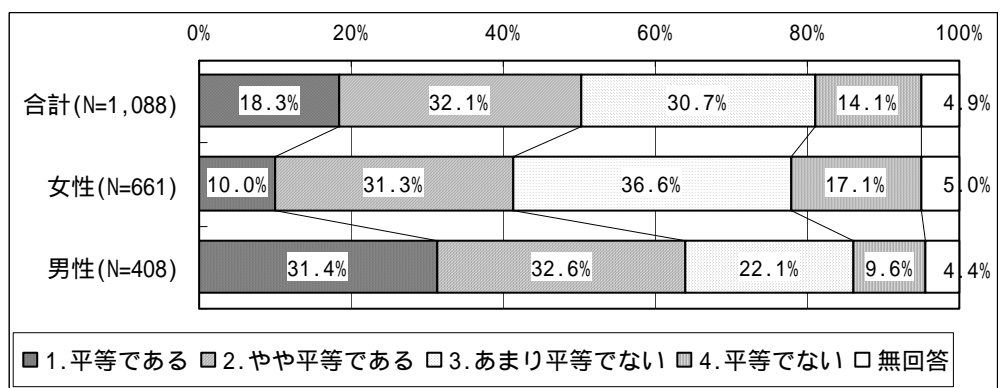
職場  
(賃金・昇進)



政治・経済  
の分野



法律や制度



全体では、平等感が高い(「平等である」と「やや平等である」の計が「あまり平等でない」と「平等でない」の計よりも多い)のが、「家庭生活」、「地域活動」、「学校」、「法律や制度」である。不平等感が高い(「あまり平等でない」と「平等でない」の計が「平等である」と「やや平等である」の計よりも多い)のが、「社会通念やしきたり等」、「就職・雇用」、「職場(賃金・昇進)」、「政治・経済の分野」である。

平等感が最も高いのが「学校(教育の場)」で、「平等である」と「やや平等である」とを合わせて70.9%となっている一方で、不平等感が最も高いのが「職場(賃金・昇進)」

で、「あまり平等でない」と「平等でない」とを合わせて73.0%となっている。

性別にみると、「家庭生活」、「法律や制度」及び「政治・経済の分野」は女性の方が男性よりも不平等感が高い傾向があり、「あまり平等でない」と「平等でない」とを合わせて、女性の回答が男性の回答よりも20ポイント以上多い。

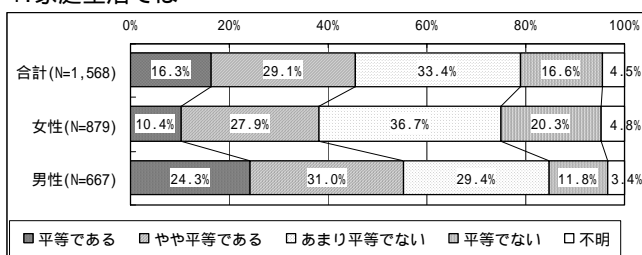
ポイント

職場（賃金・昇進）などでは男女ともに不平等感が高い一方で、家庭生活、法律や制度、政治・経済の分野では女性の不平等感が男性の不平等感を大きく上回っている。

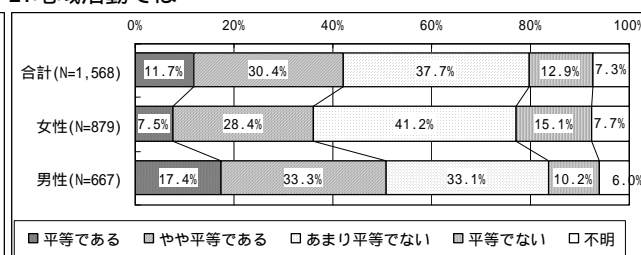
前回調査

前回調査は「1.平等でない」、「2.あまり平等でない」、「3.やや平等である」、「4.平等である」という選択肢順序で実施した。

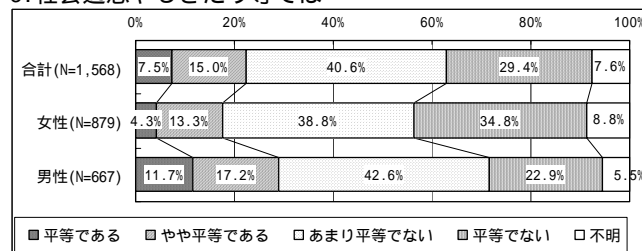
1. 家庭生活では



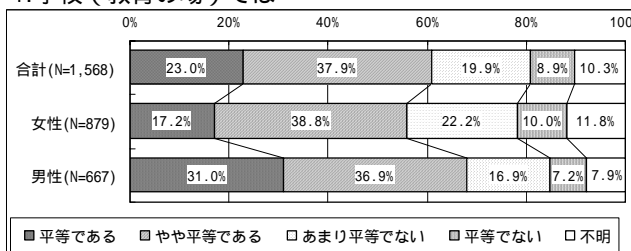
2. 地域活動では



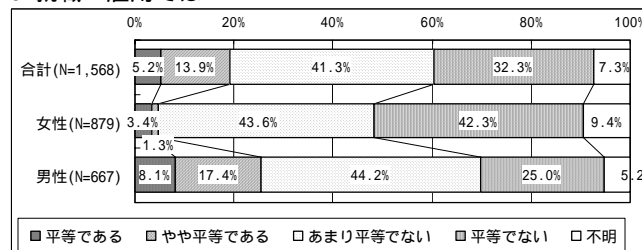
3. 社会通念やしきたり等では



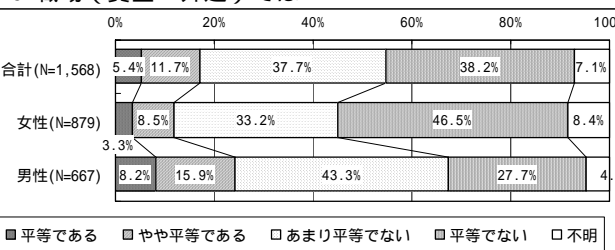
4. 学校（教育の場）では



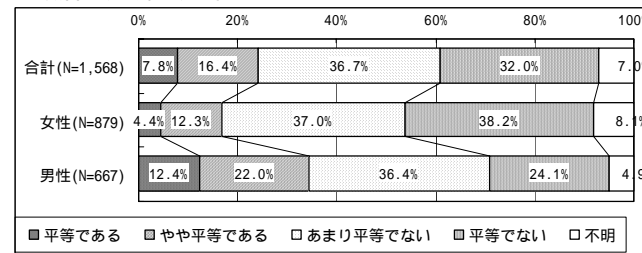
5. 就職・雇用では



6. 職場（賃金・昇進）では



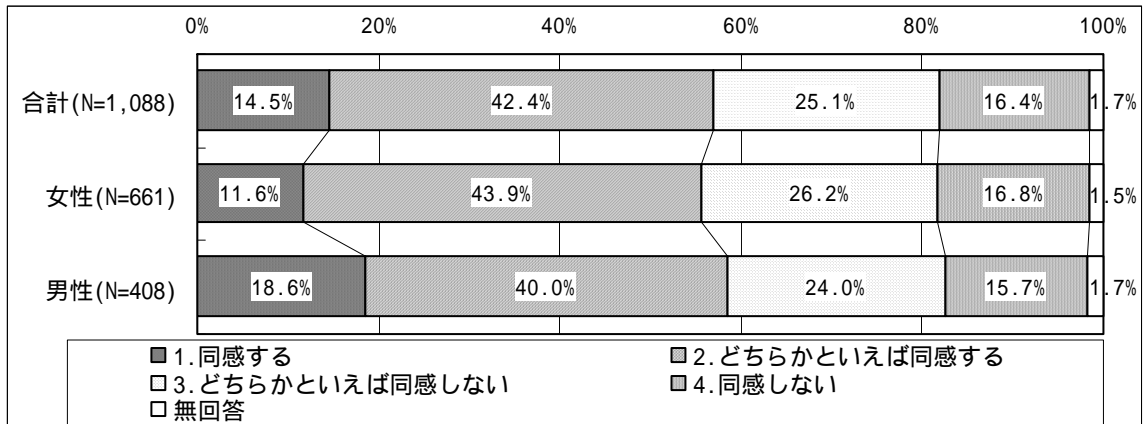
7. 政治・経済の分野では



全体では、いずれの項目も「平等である」と「やや平等である」の計が増加している。「地域活動」で15.1ポイント増加しているほか、10ポイント以上増加している項目が多いが、「職場（賃金・昇進）」では3.8ポイントの増加に留まっている。

(2) 「男は仕事、女は家事・育児」への同意

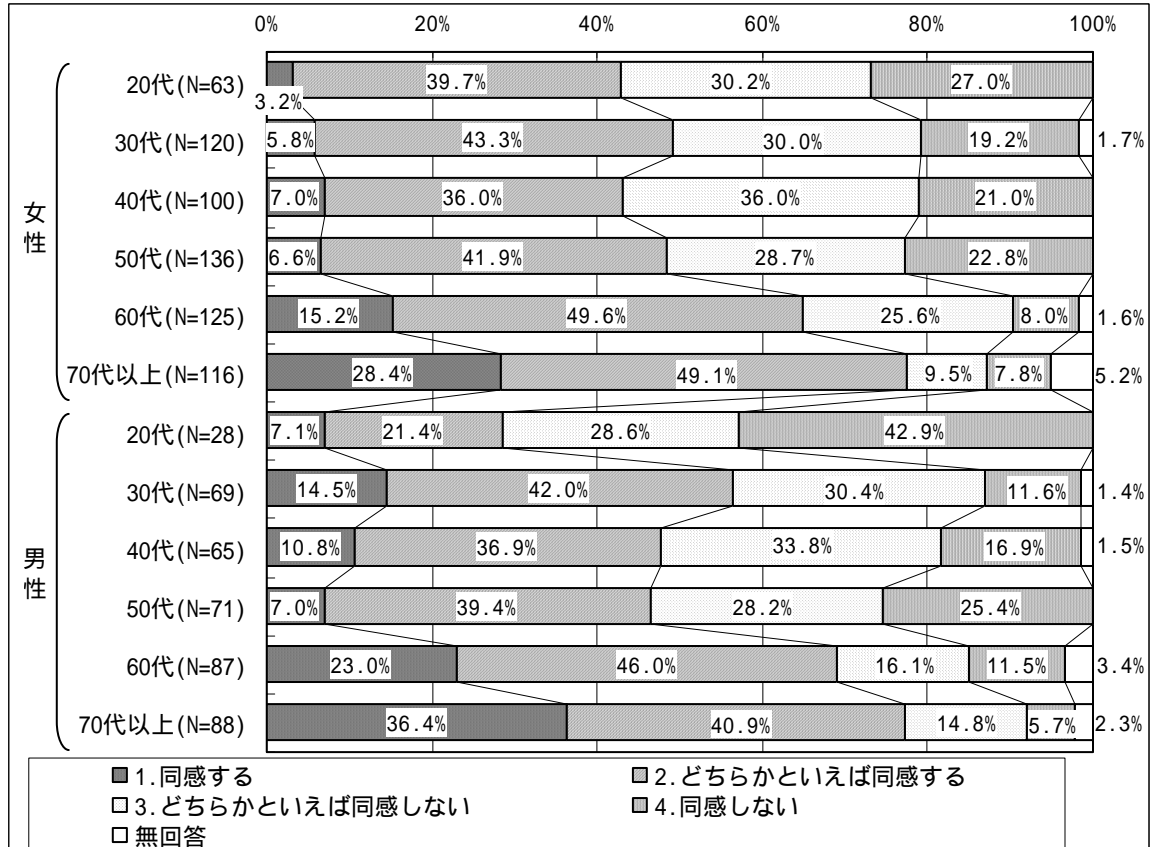
問6 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方がありますが、あなたは、この考え方に同感しますか、あるいは同感しませんか。あなたの考えに一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。



全体では、「同感する」と「どちらかといえば同感する」とを合わせて6割、「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」とを合わせて4割となっている。

性別にみると、「同感する」は男性で18.6%であるのに対して、女性で11.6%と7.0ポイントの差がある。

< 性別・年齢別 >



性別・年齢別にみると、男女ともに、20代、40代及び50代では不同意(「どちらかとい

えば同感しない」と「同感しない」とを合わせた回答)が同意(「同感する」と「どちらかといえば同感する」とを合わせた回答)よりも多い。それに対して、男女ともに、60代及び70代では同意が不同意よりも多い。概ね50代以下と60代以上で傾向が異なり、年代による意識の違いが見られるものの、男性の30代では60代以上と同様の傾向である。

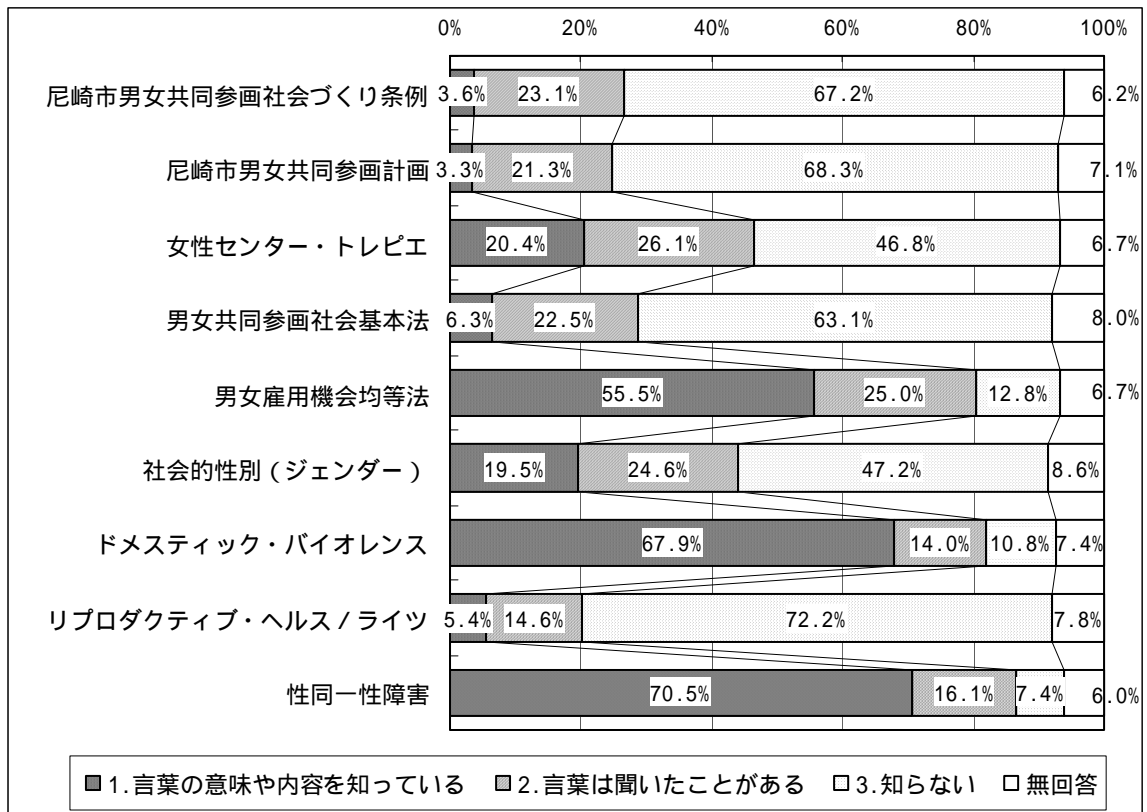
ポイント

年代により傾向が異なるものの、「男は仕事、女は家事・育児」という性別役割分担意識がいまだ根強いことがうかがえる。

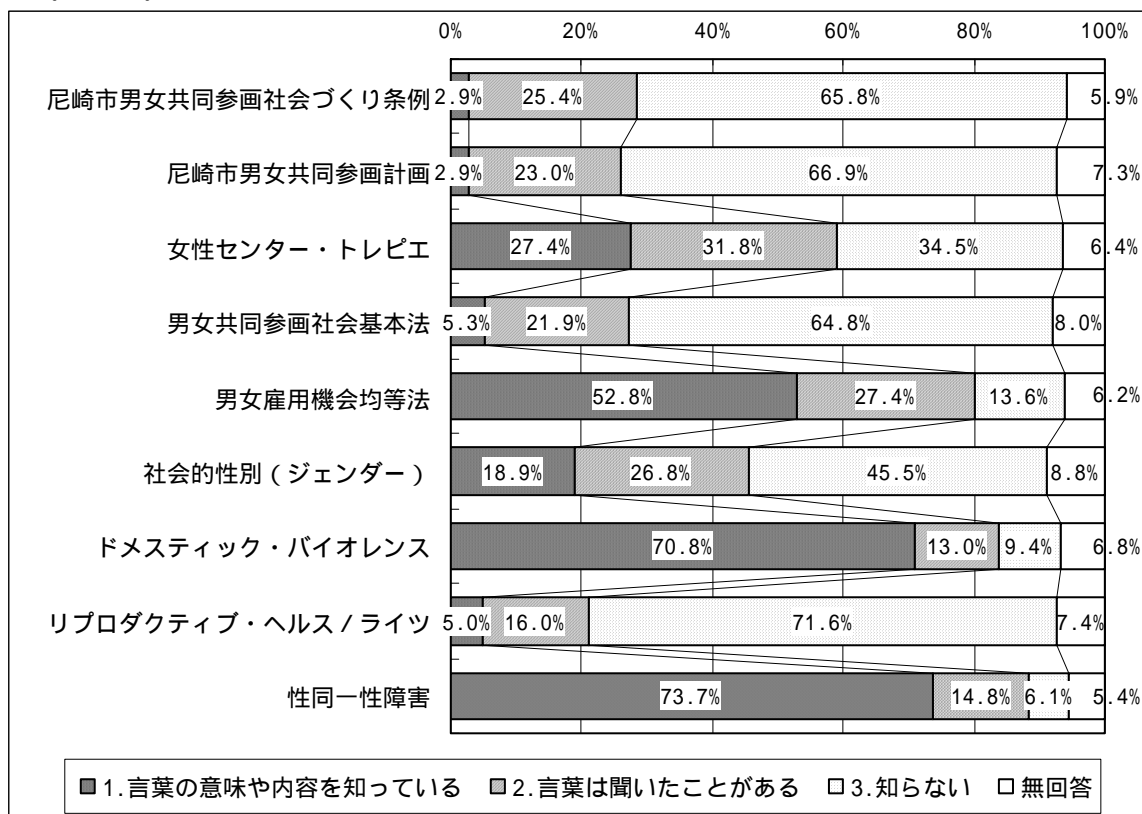
(3) 男女共同参画に関する言葉の認知

問13 男女共同参画に関する、次の言葉の意味や内容をご存知ですか。それぞれの項目について、あてはまる選択肢の番号に1つをつけてください。

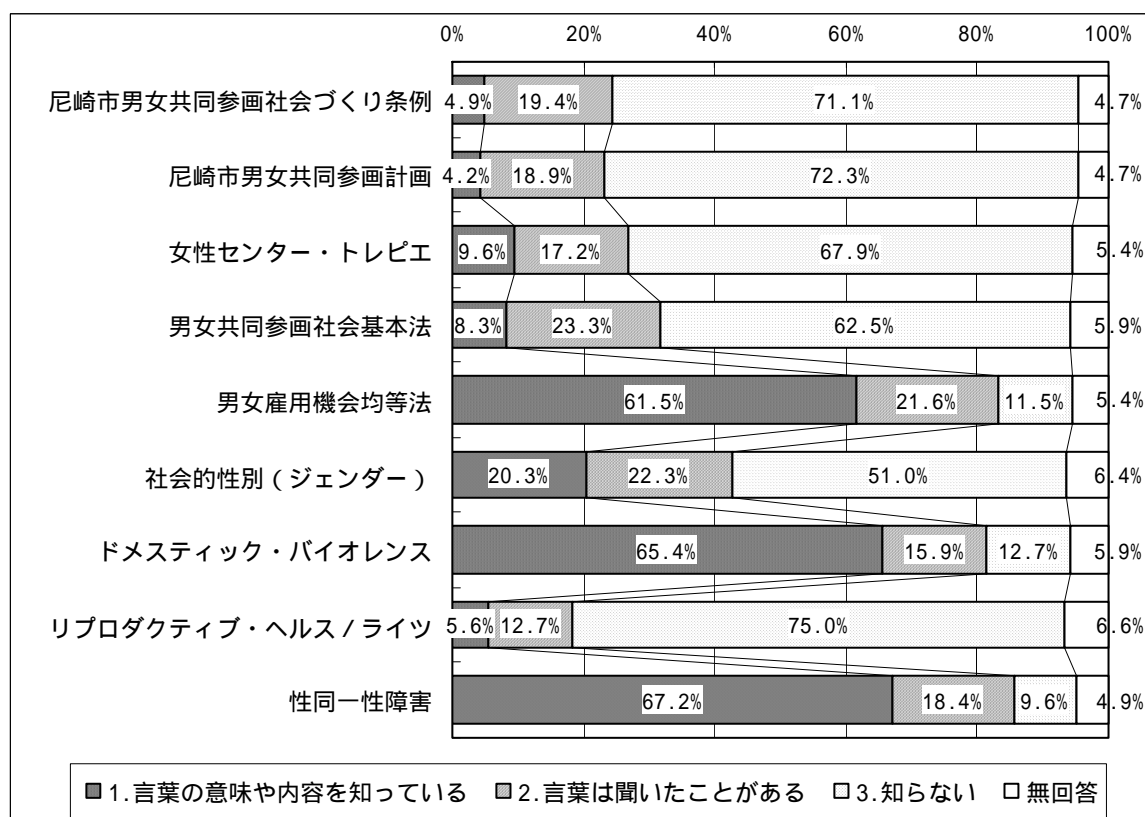
全体 (N=1,088)



女性 (N=661)



男性 (N=408)



全体では、「言葉の意味や内容を知っている」が最も多いのが「性同一性障害」、次いで「ドメスティック・バイオレンス」、「男女雇用機会均等法」である。特に「性同一性障害」

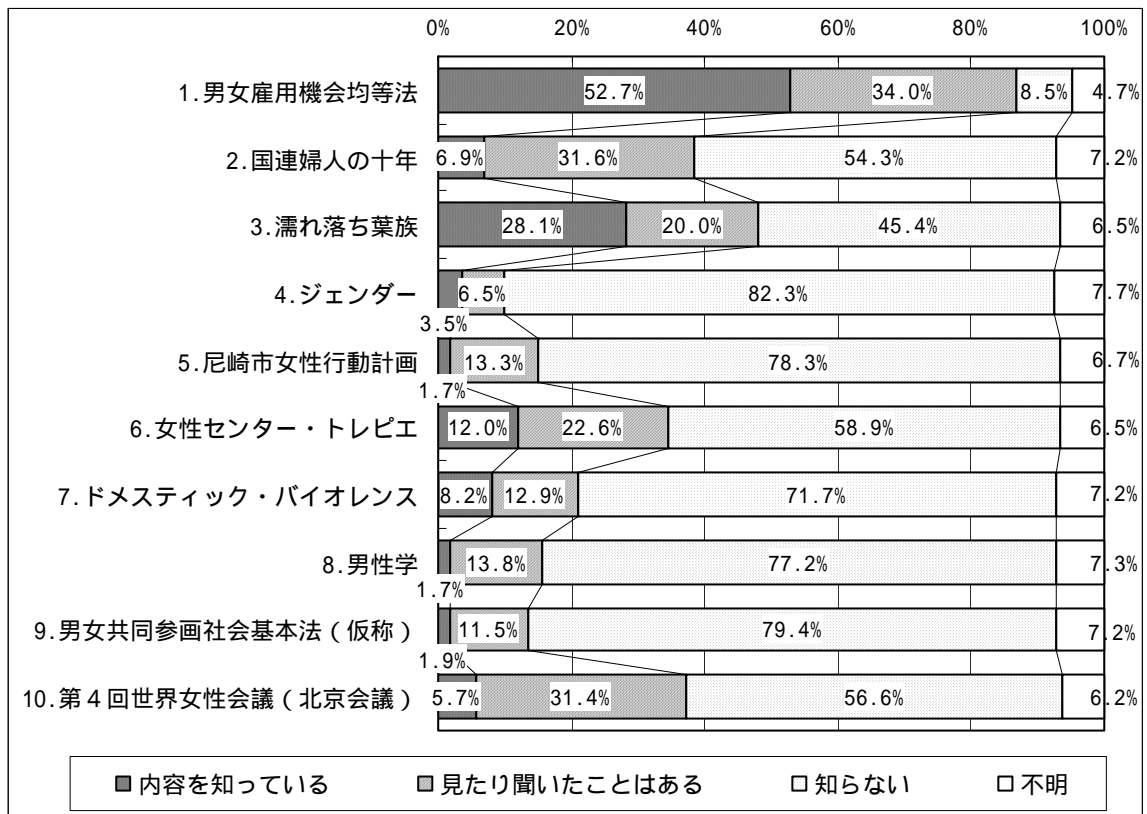
及び「ドメスティック・バイオレンス」は7割が意味や内容まで知っている」と回答している。また、「知らない」が最も多いのが「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」、次いで「尼崎市男女共同参画計画」、「尼崎市男女共同参画社会づくり条例」、「男女共同参画社会基本法」である。

性別にみると、「女性センター・トレピエ」は、「言葉の意味や内容を知っている」が女性で27.4%であるのに対して、男性で9.6%と17.8ポイントの差があり、「知らない」は女性で34.5%、男性で67.9%と33.4ポイントの差がある。

ポイント

性同一性障害、ドメスティック・バイオレンスの認知度は高いが、認知度の低い市の男女共同参画社会づくり条例や男女共同参画計画などの周知を図る必要がある。

前回調査



「ドメスティック・バイオレンス」は認知度が大いに高まっており、「言葉の意味や内容を知っている（前回調査では「内容を知っている）」が59.7ポイント増加している。また、他の言葉で「言葉の意味や内容を知っている（前回調査では「内容を知っている）」が増加したのは、「社会的性別（ジェンダー）（前回調査では「ジェンダー）」（16.0ポイント増加）、「女性センター・トレピエ」（8.4ポイント増加）などである。



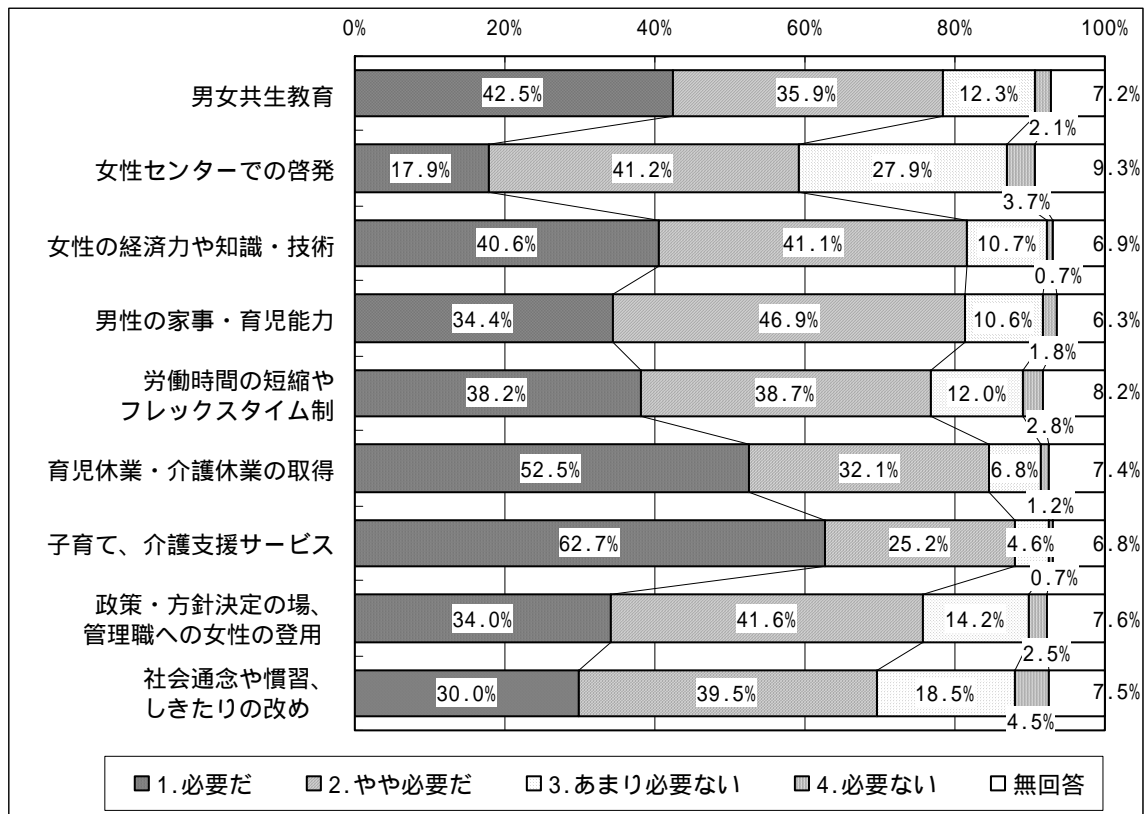
(4) 今後必要なこと

問14 男女が対等なパートナーとして、ともに家庭での役割を担い、社会のあらゆる分野に参加・参画していくためには、今後、どのようなことが必要だと思われますか。それぞれの項目について、あなたの考えに一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。

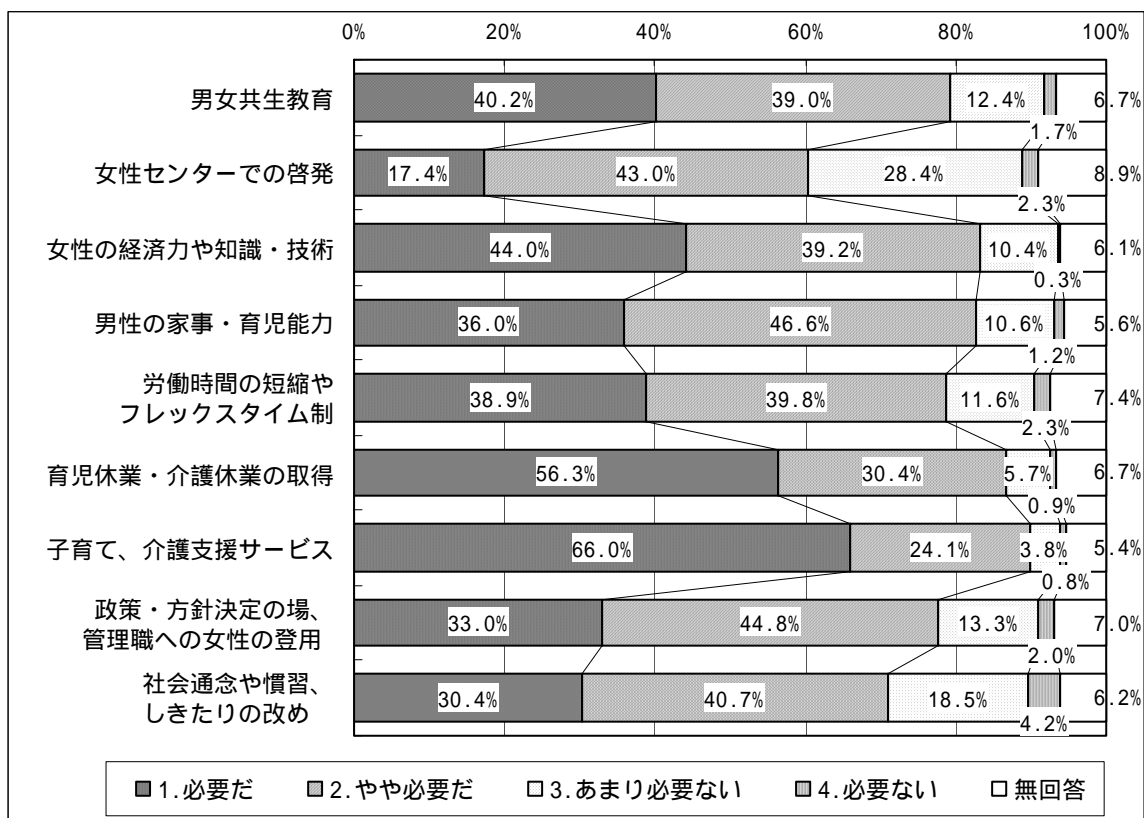
<項目> 下記グラフでは項目を要約

- |                               |                        |
|-------------------------------|------------------------|
| 学校教育の中で男女共生教育を推進する            | 女性センターなどで男女共同参画の啓発を進める |
| 女性が経済力や知識・技術を身につける            | 男性が家事や育児を行う能力を身につける    |
| 職場で労働時間の短縮やフレックスタイム制の導入などを進める | 子育て、介護を支援するサービスを充実させる  |
| 職場で育児休業・介護休業の取得を促進する          | 社会通念や慣習、しきたりなどを改める     |
| 政策・方針決定の場、管理職への女性の登用を促進する     |                        |

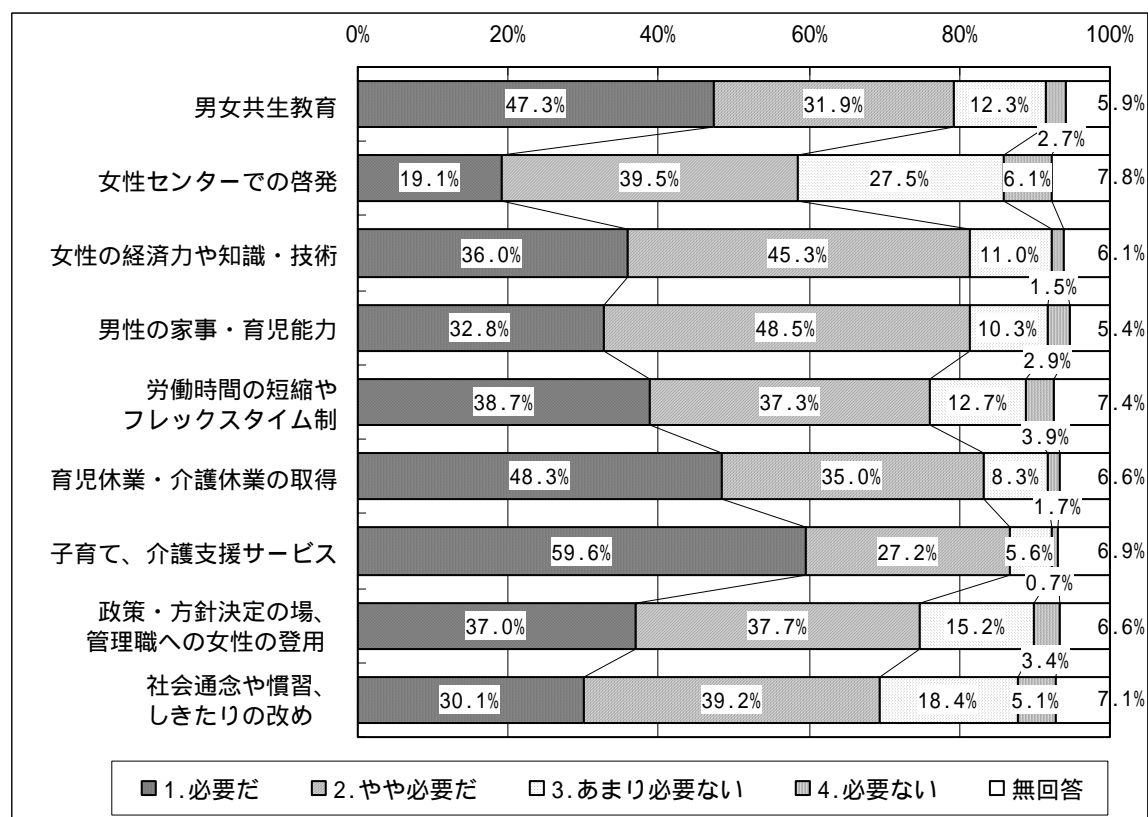
全体 (N=1,088)



女性 (N=661)



男性 (N=408)



全体では、「必要だ」と「やや必要だ」を合わせて最も多いのが「子育て、介護支援サービス」、次いで「育児休業・介護休業の取得」、「女性の経済力や知識・技術」、「男性の家事・

育児能力」である。また、すべての項目について、「必要だ」と「やや必要だ」を合わせた回答が、「あまり必要ない」と「必要ない」を合わせた回答よりも多い。

性別にみると、「必要だ」と「やや必要だ」を合わせた回答と、「あまり必要ない」と「必要ない」を合わせた回答を比べると、いずれの項目でも大きな差はみられない。

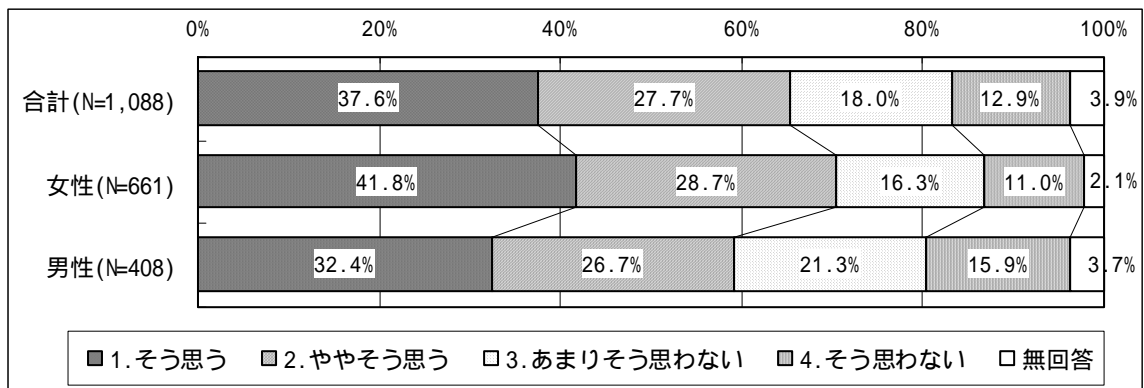
ポイント

ライフサイクルの中で大きな出来事である子育て、介護の時期のサポートを充実するとともに、女性のエンパワメントも支援していく必要がある。

(5) 結婚の考え方

問20 結婚について、次のような考え方をあなたはどのように思いますか。あなたの考えに一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。

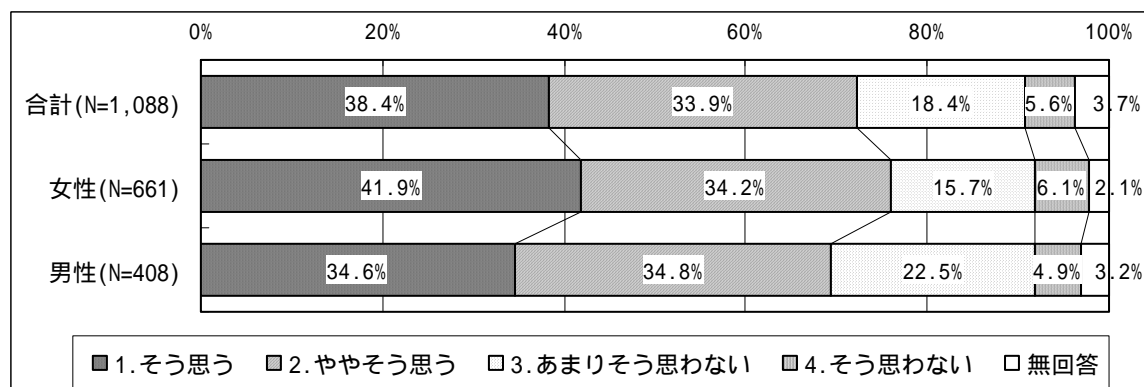
ア 結婚は個人の自由であるから、必ずしも結婚しなくてもよい



全体では、「そう思う」が37.6%と最も多く、次いで「ややそう思う」が27.7%であり、合わせて65.3%である。

性別にみると、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて、女性で70.5%であるのに対して、男性で59.1%と11.4ポイントの差がある。

イ 結婚してもうまいかなければ、離婚してやり直す方がよい



全体では、「そう思う」が38.4%と最も多く、次いで「ややそう思う」が33.9%であり、合わせて72.3%である。

性別にみると、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて、女性で76.1%であるのに対して、男性で69.4%と6.7ポイントの差がある。

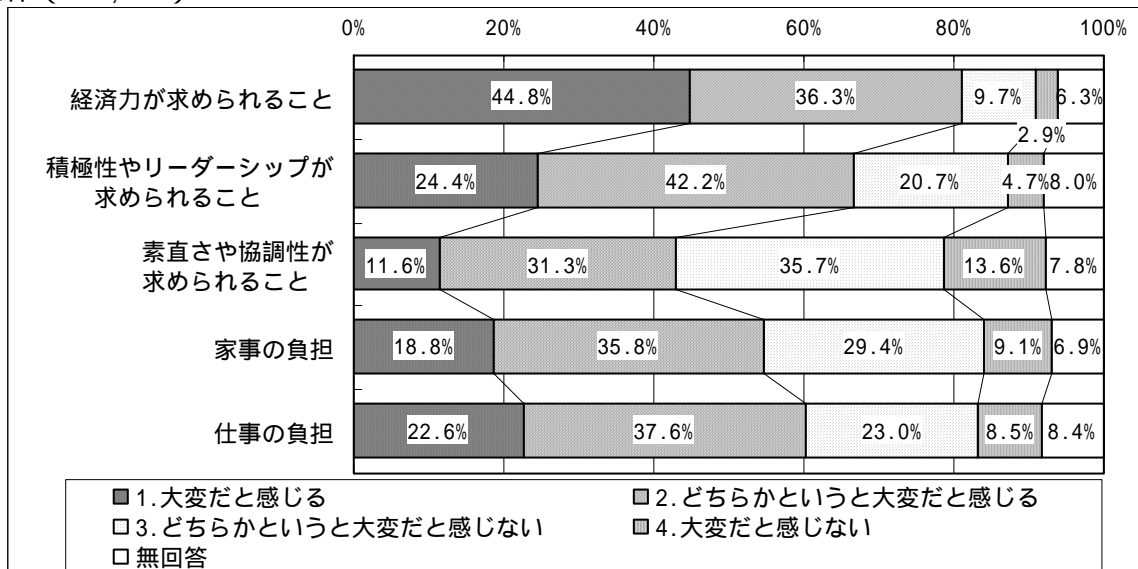
ポイント

結婚をするかどうか、また離婚についても、個人の判断によるものであると考えられていることがうかがえる。

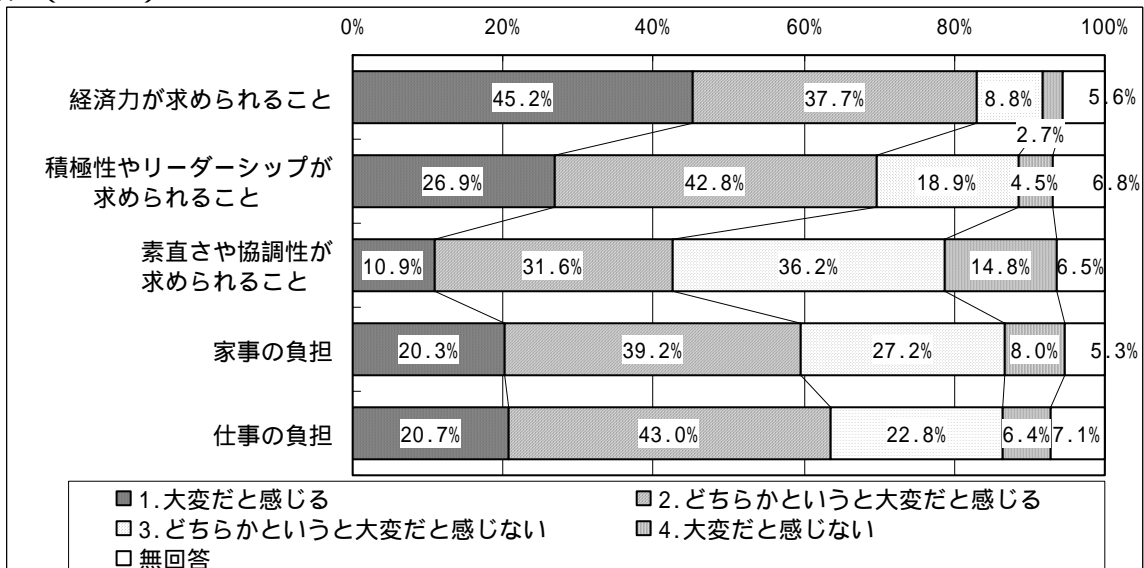
(6) 社会生活の負担感

問21 あなたは社会生活を送る上で、次のようなことを大変だと感じていますか。それぞれの項目について、あなたの考えに一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。

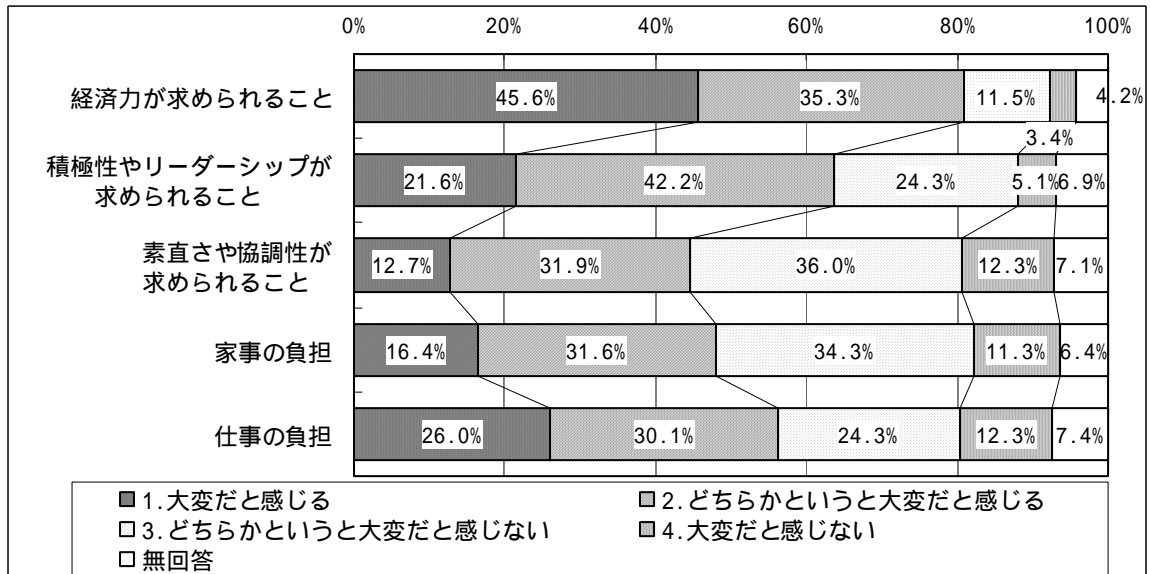
全体 (N=1,088)



女性 (N=661)



男性 (N=408)



全体では、「大変だと感じる」と「どちらかという大変だと感じる」を合わせて、「経済力が求められること」が81.1%と最も多く、次いで「積極性やリーダーシップが求められること」が66.6%で、「仕事の負担」が60.2%である。

性別にみると、「大変だと感じる」と「どちらかという大変だと感じる」を合わせて、「家事の負担」で女性が59.5%であるのに対して、男性が48.0%と11.5ポイントの差がある。

ポイント

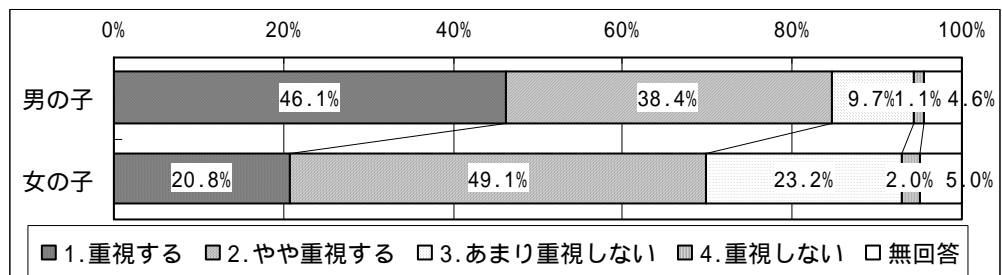
社会生活を送る上で、男女ともに経済力が求められることへの負担感が高い。

4 ワーク・ライフ・バランスの確立

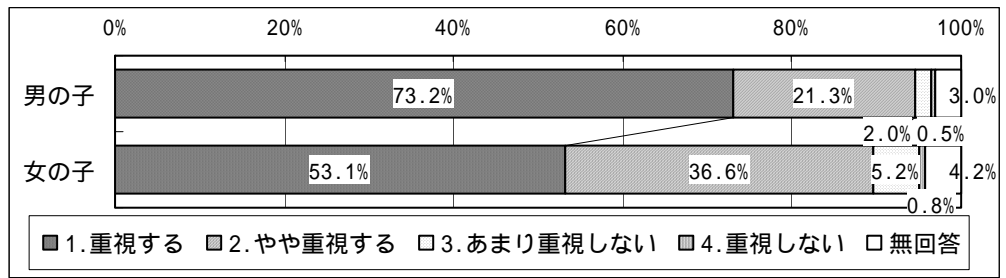
(1) 子育てで重視すること

問2 子どもを育てるとき、あなたはなにを重視しますか。それぞれの項目について、あなたが重視する程度に一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。子どものいない方は、「いる」と仮定してお答えください。

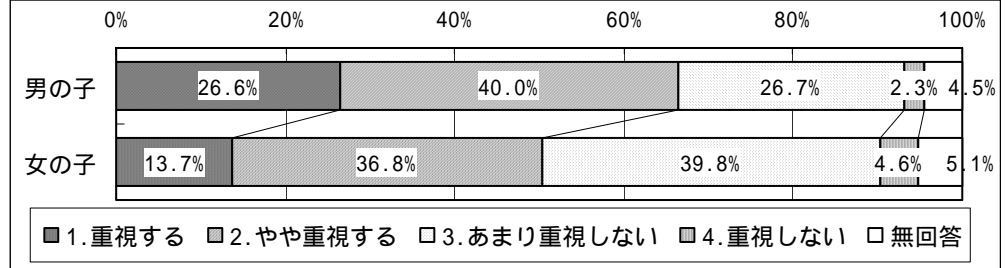
活発さ  
(N=1,088)



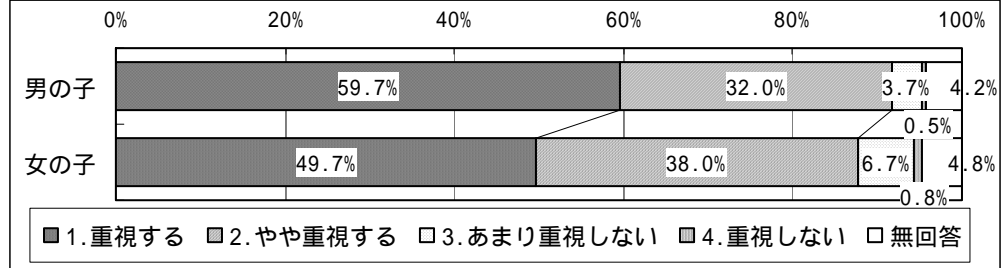
責任感  
(N=1,088)



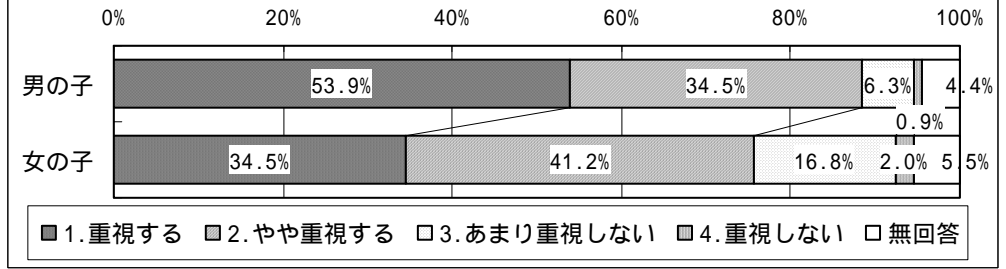
リーダーシップ  
(N=1,088)



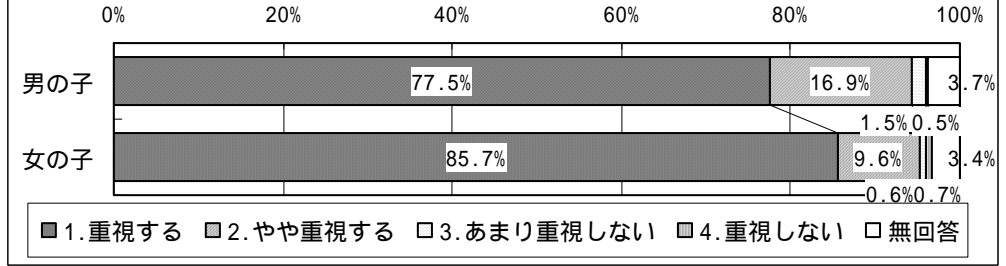
判断力  
(N=1,088)



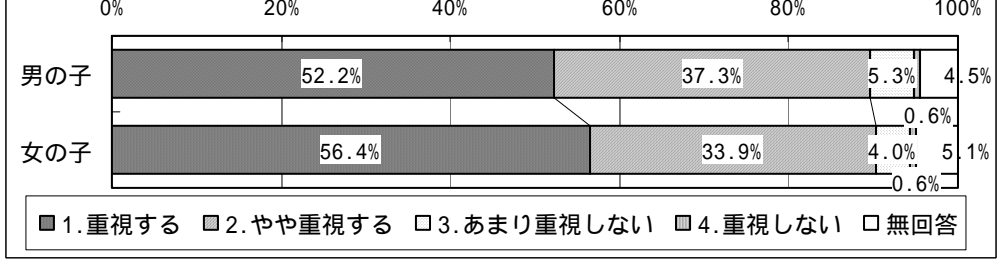
勇気  
(N=1,088)

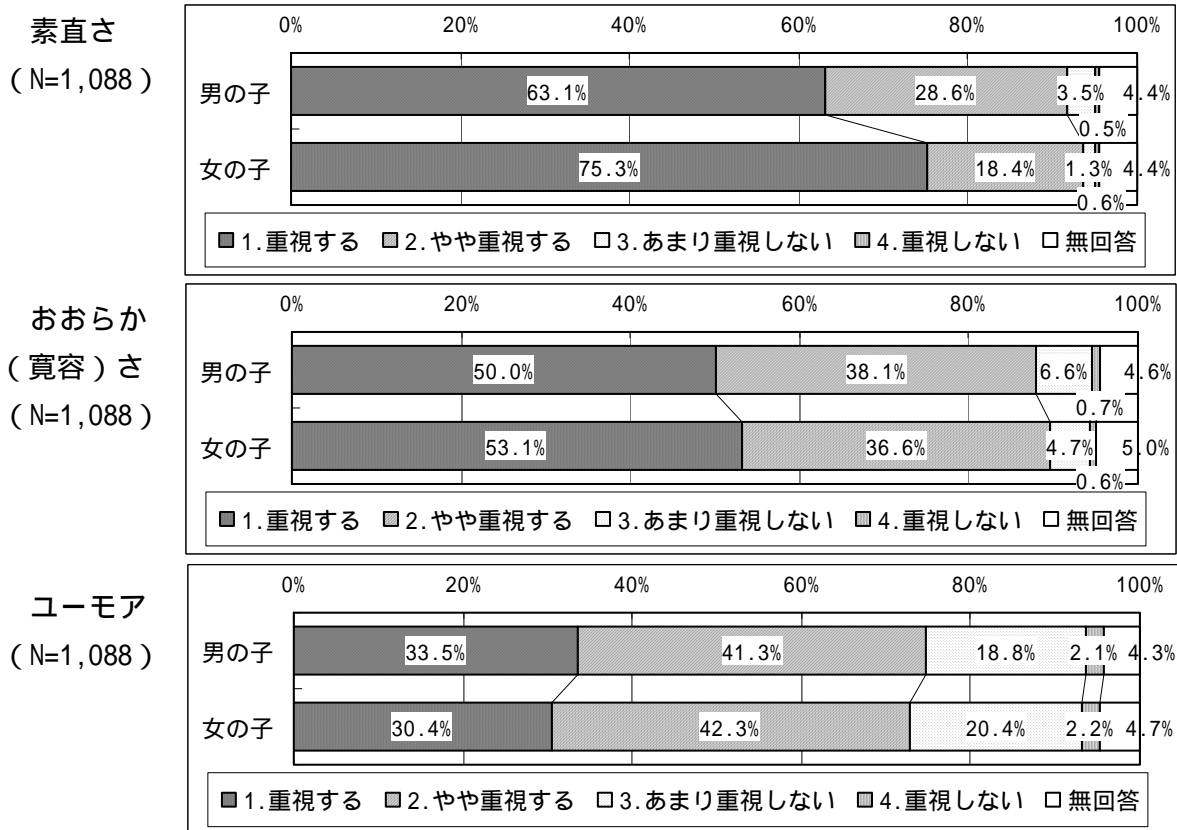


やさしさ・思いやり  
(N=1,088)



協調性  
(N=1,088)





男子の場合は、「重視する」と「やや重視する」とを合わせて最も多いのが「責任感」(94.5%)、以下「やさしさ・思いやり」(94.4%)、「素直さ」及び「判断力」(91.7%)の順である。女子の場合は、最も多いのが「やさしさ・思いやり」(95.3%)、次いで「素直さ」(93.7%)、「協調性」(90.3%)の順である。

「重視する」との回答が、男子の場合の方が女子の場合よりも高いものは、「活発さ」、「責任感」、「勇気」、「リーダーシップ」、「判断力」、「ユーモア」である。特に「活発さ」では25.4ポイント、「責任感」では20.1ポイント、「勇気」では19.4ポイントの差がある。

また、「重視する」との回答が、女子の場合の方が男子の場合よりも高いのは、「素直さ」、「やさしさ・思いやり」、「協調性」、「おおらか(寛容)さ」である。特に「素直さ」では12.2ポイントの差がある。

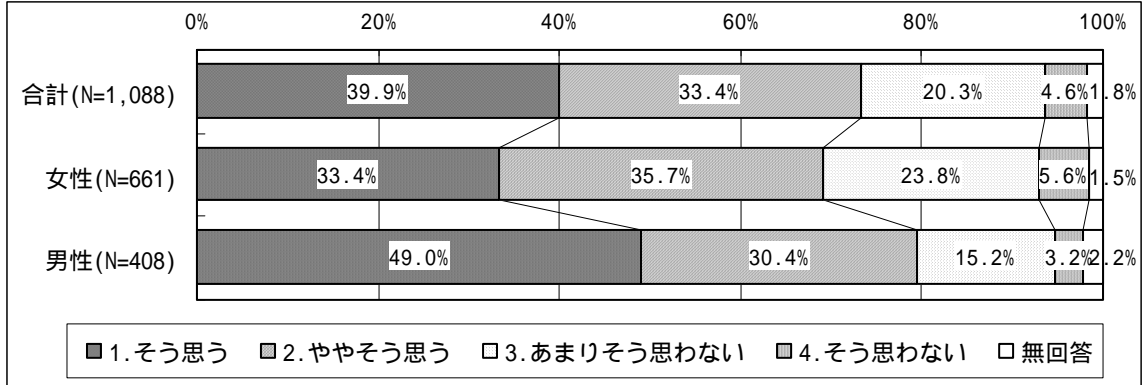
#### ポイント

子どもの頃から、性別によって異なる育て方がなされ、男子には、いわゆる「男らしい」と考えられている性質がより強く期待されていることがうかがえる。

(2) 子育ての考え方

問3 子育てについての次のような考え方をどう思いますか。あなたの考えに一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。

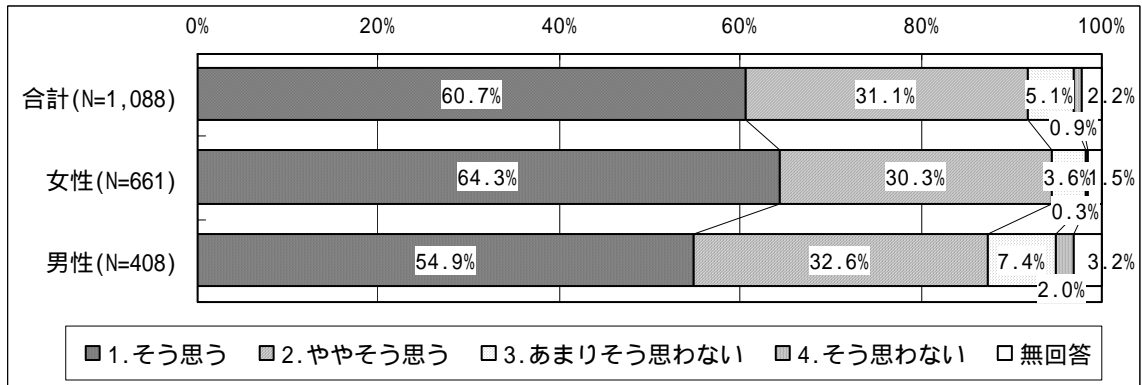
ア 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい



全体では、「そう思う」と「ややそう思う」とを合わせて7割となっている。

性別にみると、「そう思う」は男性で49.0%であるのに対して、女性で33.4%と15.6ポイントの差がある。

イ 男女区別せず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てるのがよい



全体では、「そう思う」と「ややそう思う」とを合わせて9割となっている。

性別にみると、「そう思う」は女性で64.3%であるのに対して、男性で54.9%と9.4ポイントの差がある。

ポイント

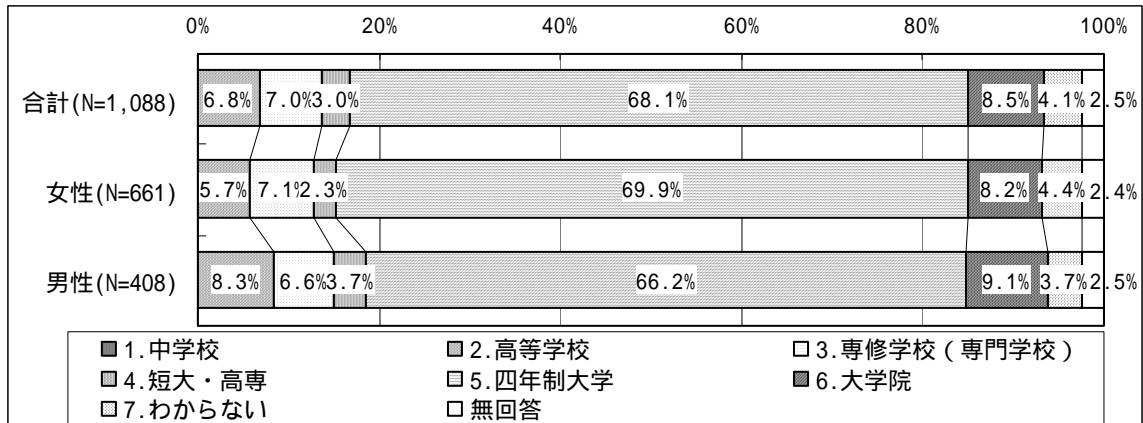
その子らしく育てるのがよい、男の子は男らしく・女の子は女らしく育てるのがよいという2つの考え方が相反しないものと捉えられている。



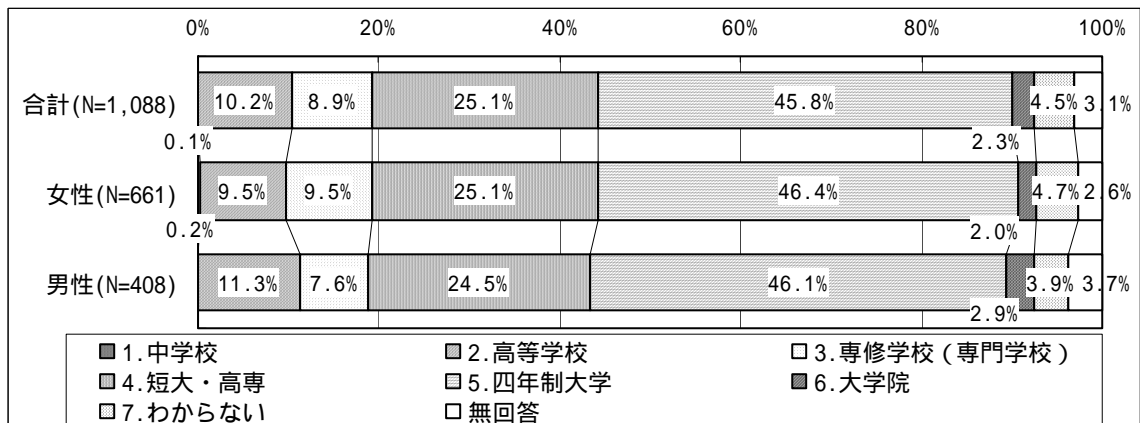
### (3) 子どもに受けさせたい教育程度

問4 あなたは自分の子どもに、どの程度まで教育を受けさせたい(受けさせたかった)ですか。それぞれの項目について、あなたの考えに一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。

#### 男の子の場合



#### 女の子の場合



男の子の場合、女の子の場合ともに最も多いのは「四年制大学」であるが、男の子の場合が68.1%であるのに対して、女の子の場合は45.8%であり、22.3ポイントの差がある。

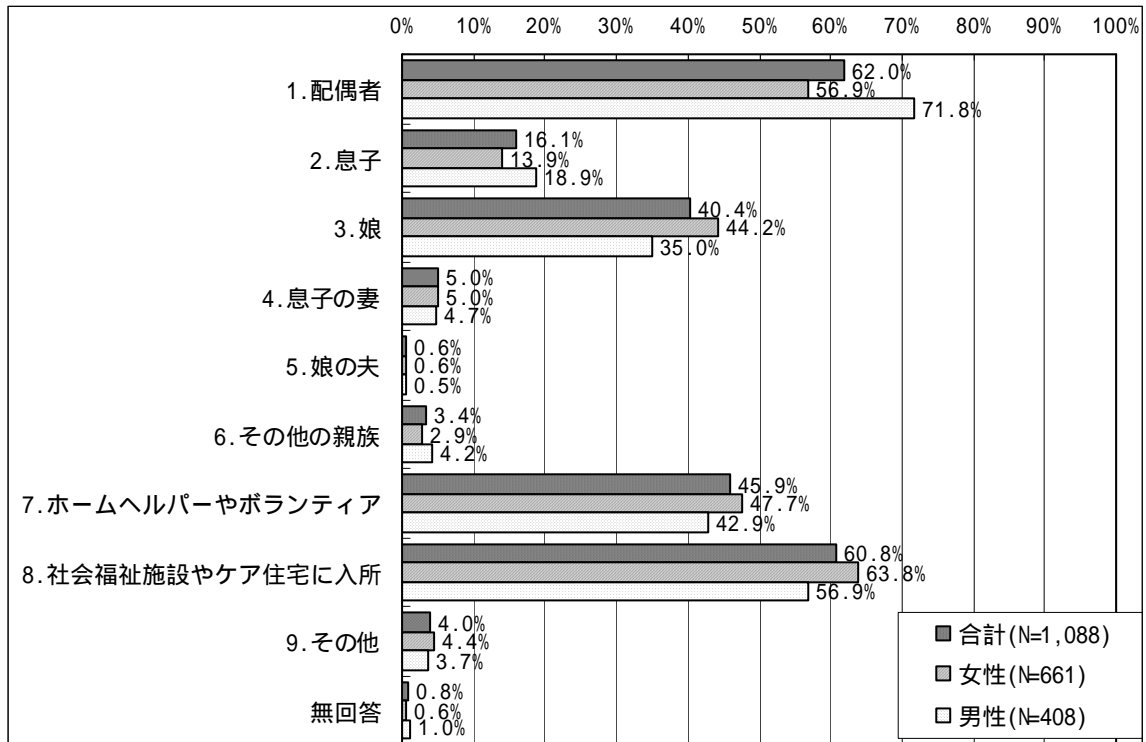
男の子の場合は、「四年制大学」に次いで「大学院」が8.5%となっており、女の子の場合は、「四年制大学」に次いで「短大・高専」が25.1%となっている。

#### ポイント

男の子と女の子とで教育程度について異なる方針の人がみられ、社会的性別(ジェンダー)の理解が広がっていないことも反映していると考えられる。

#### (4) 高齢になった時の身の回りの世話の希望

問5 あなたが高齢になって、もし寝たきりや認知症になったら、主に、誰に(どこで)身の回りの世話をしてもらいたと思いますか。あてはまる選択肢の番号に3つまでをつけてください。



全体では、「配偶者」、「社会福祉施設やケア住宅に入所」が6割、「ホームヘルパーやボランティア」、「娘」が4割を超えている。

性別にみると、「配偶者」は男性で71.8%であるのに対して、女性で56.9%と14.9ポイントの差がある。

#### ポイント

男性が女性に比べ、配偶者に期待している傾向がうかがえるとともに、社会的な支援も男女ともに希望しており、介護の社会化が進んでいることがうかがえる。

(5) 家庭での役割分担

問7 日常的な家庭の仕事の分担についてうかがいます。

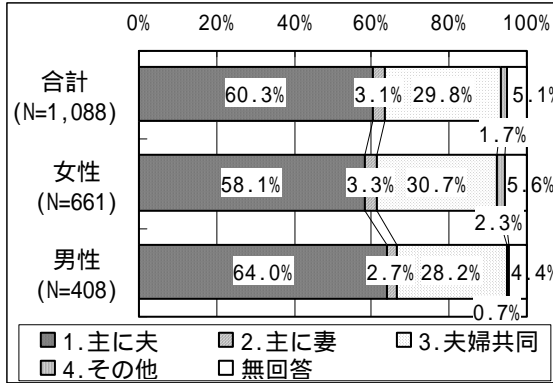
「A 理想」は全員の方がお答えください。

「B 現実」は配偶者のいる方のみお答えください。子どもやお年寄り、病人に関する項目は、該当する方のみお答えください。

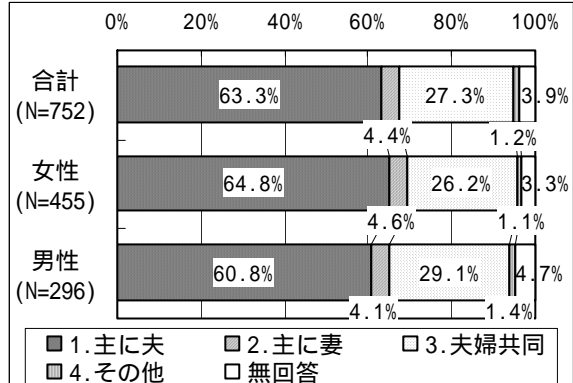
それぞれの項目について、あなたの考えや実際の分担に一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。

生活費の確保

A 理想

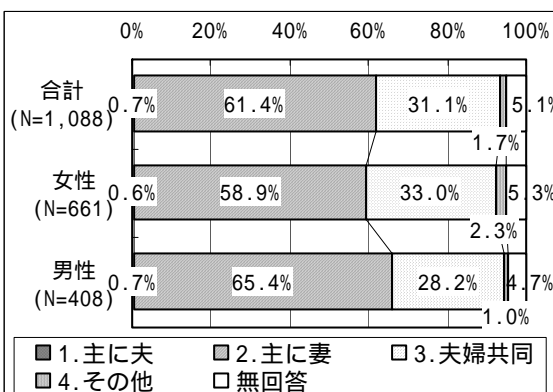


B 現実

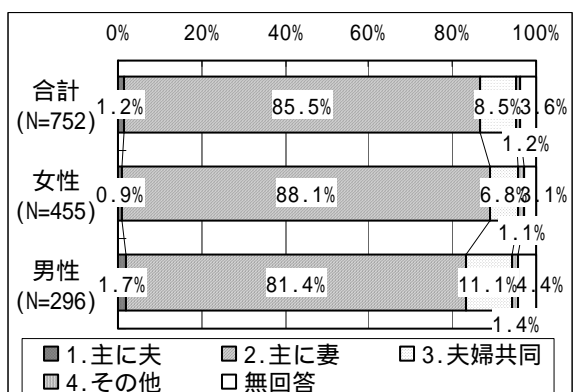


食事の支度

A 理想

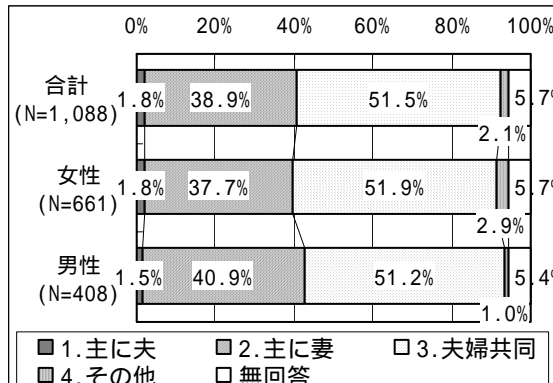


B 現実

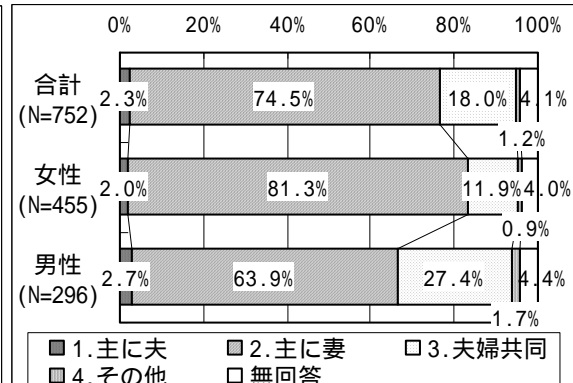


食事の後片付け

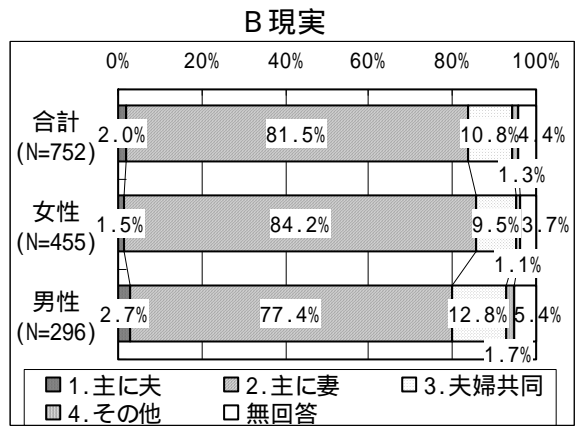
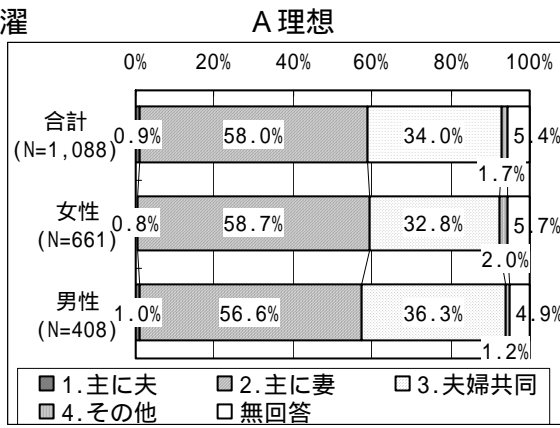
A 理想



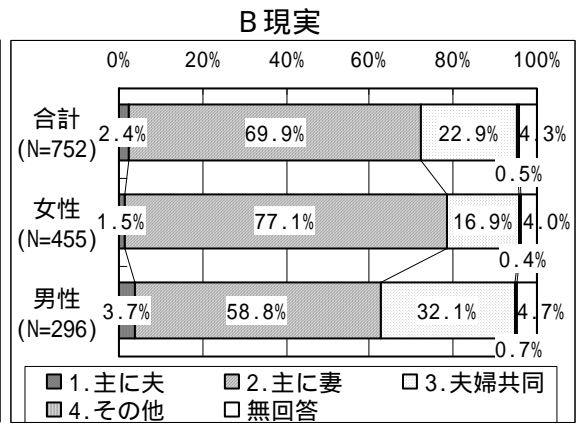
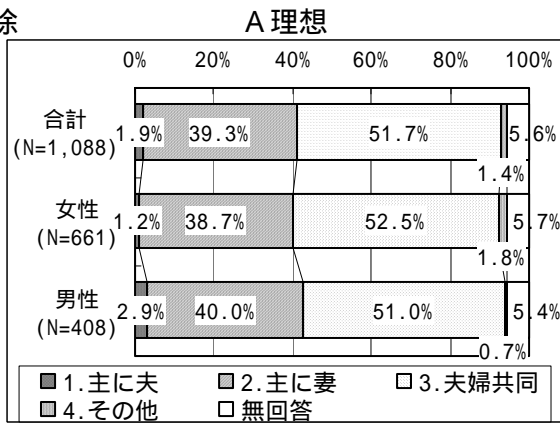
B 現実



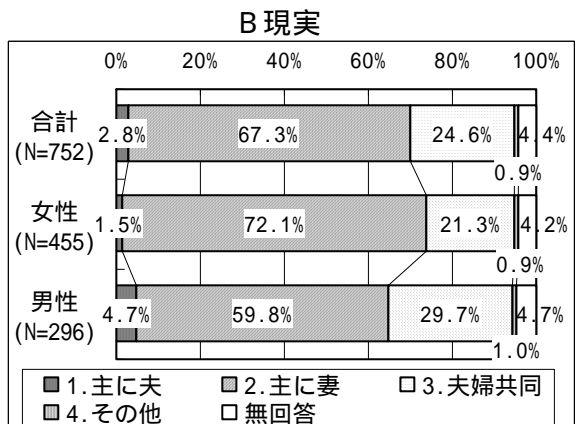
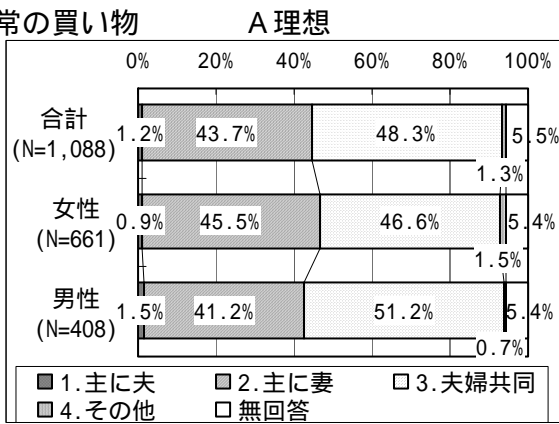
洗濯



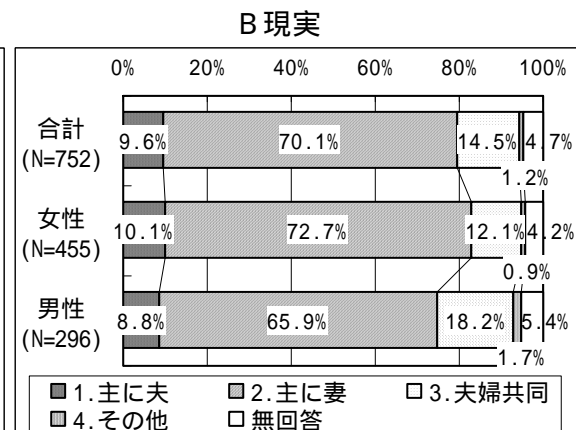
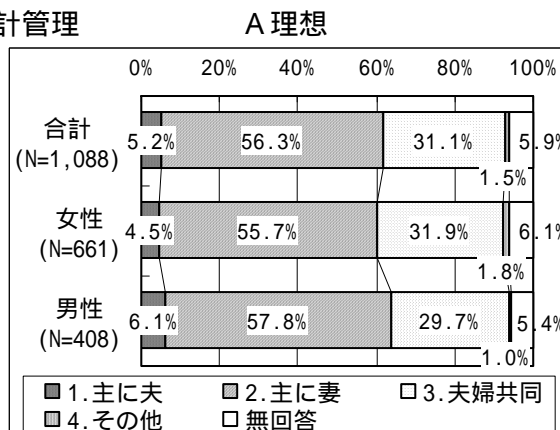
掃除



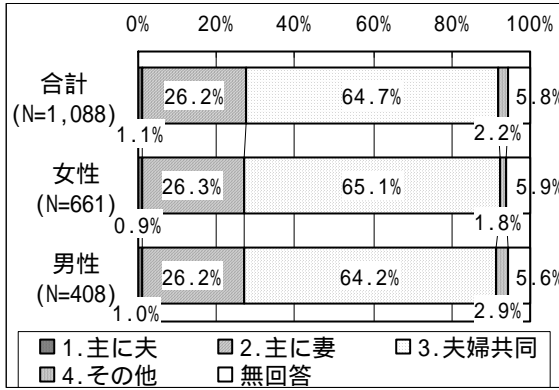
日常の買い物



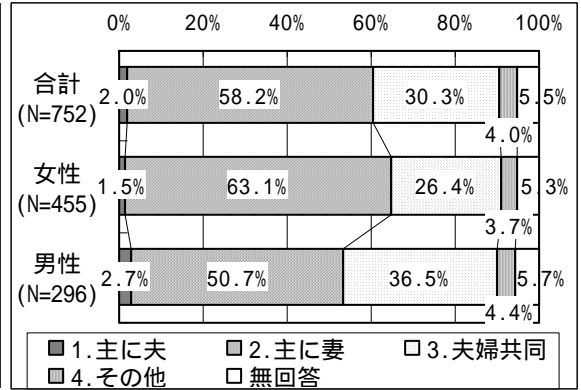
家計管理



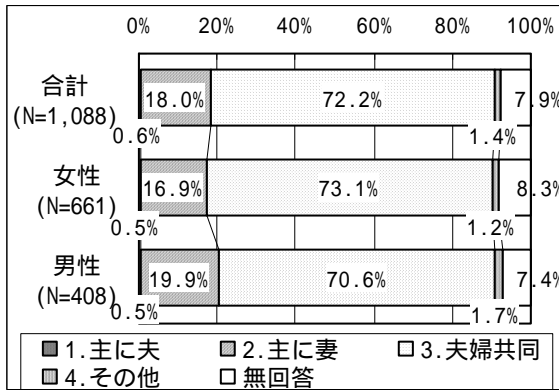
近所とのつきあい A 理想



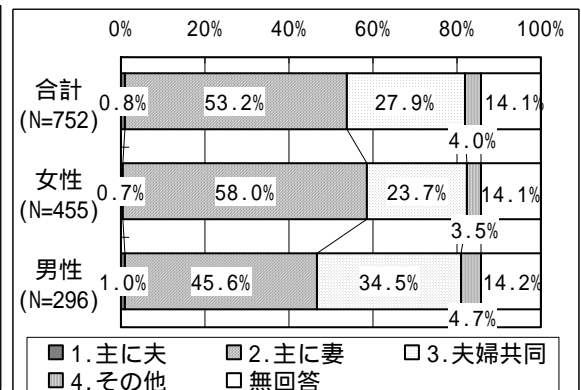
B 現実



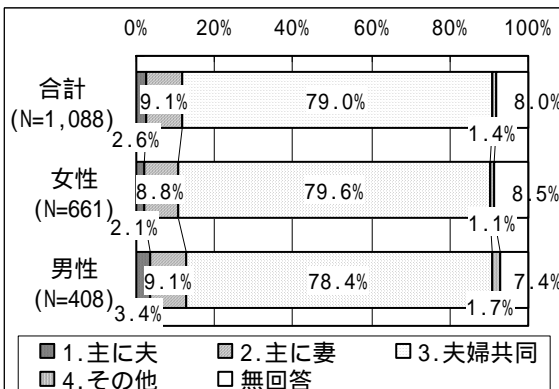
子どもの世話 A 理想



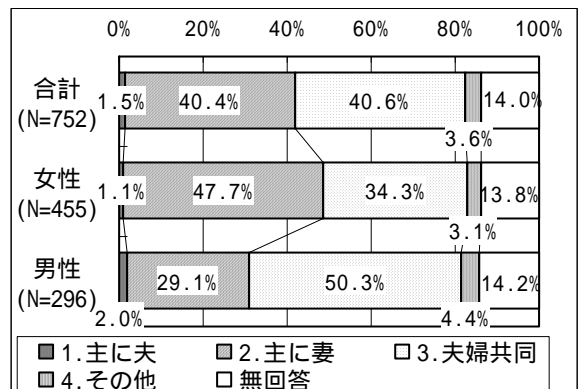
B 現実



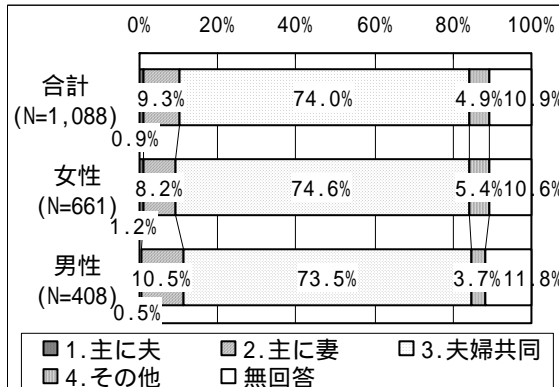
子どものしつけ・教育 A 理想



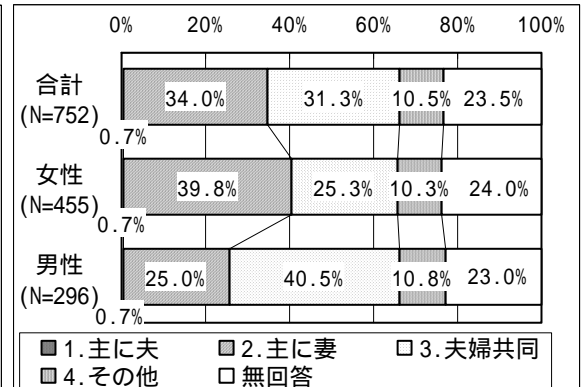
B 現実



お年寄りや病人の世話・介護 A 理想



B 現実



A理想について、全体で「夫婦共同」が最も多いのが11項目中7項目であり、「子どものしつけ」、「お年寄りや病人の世話・介護」、「子どもの世話」、「近所とのつきあい」、「掃除」、「食事の後片付け」、「日常の買い物」となっている。

また、「主に夫」が最も多いのは、「生活費の確保」のみとなっている。「主に妻」が最も多いのは、「食事の支度」、「洗濯」、「家計管理」の3項目となっている。

B現実について、全体で「主に妻」が最も多いのが11項目中9項目であり、「食事の支度」、「洗濯」、「食事の後片付け」、「家計管理」、「掃除」、「日常の買い物」、「近所とのつきあい」、「子どもの世話」、「お年寄りや病人の世話・介護」となっている。

また、「子どものしつけ」は「夫婦共同」が最も多いが、「夫婦共同」、「主に妻」のいずれも4割である。「主に夫」が最も多いのは、「生活費の確保」のみとなっている。

また、B現実では、女性が「主に妻」、男性が「夫婦共同」と回答する傾向があり、「食事の後片付け」、「掃除」、「近所とのつきあい」、「子どもの世話」、「子どものしつけ・教育」、「お年寄りや病人の世話・介護」について、「主に妻」及び「夫婦共同」の回答に性別による差が10ポイント以上ある。

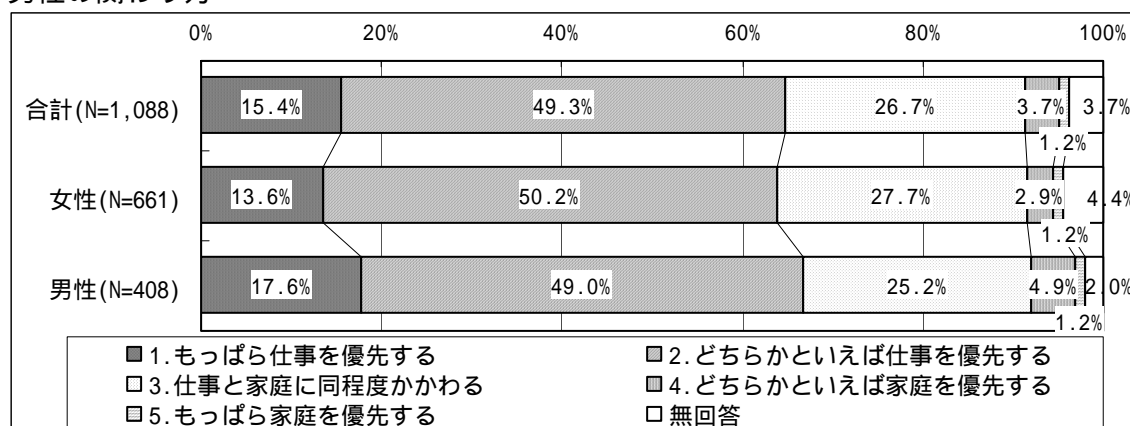
ポイント

家庭の仕事の分担の理想は「夫婦共同」が多いものの、現実には「主に妻」が多く、理想と現実のギャップが大きい。

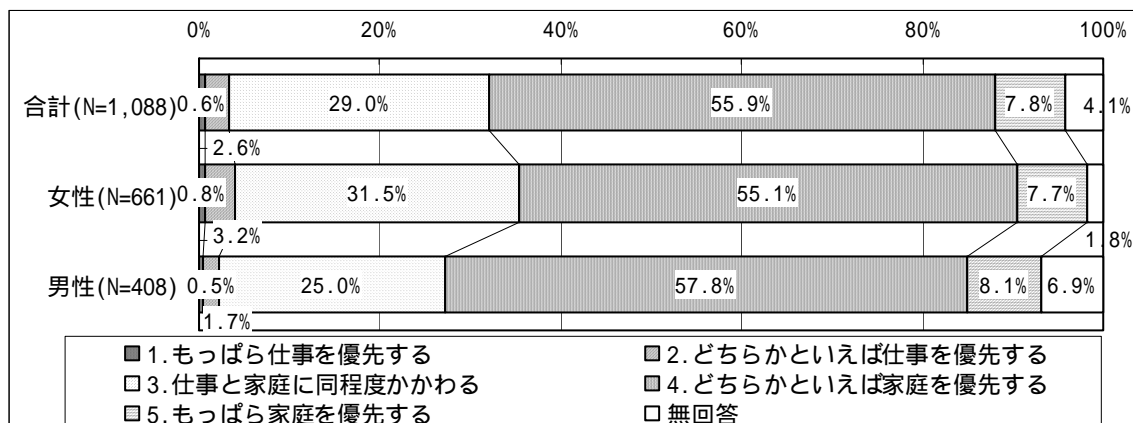
(6) 好ましい仕事と家庭の関わり方

問8 現状はともかく、男性、女性それぞれの仕事と家庭の関わり方は、どのような形が好ましいと思いますか。あなたの考えに一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。

男性の関わり方



## 女性の関わり方

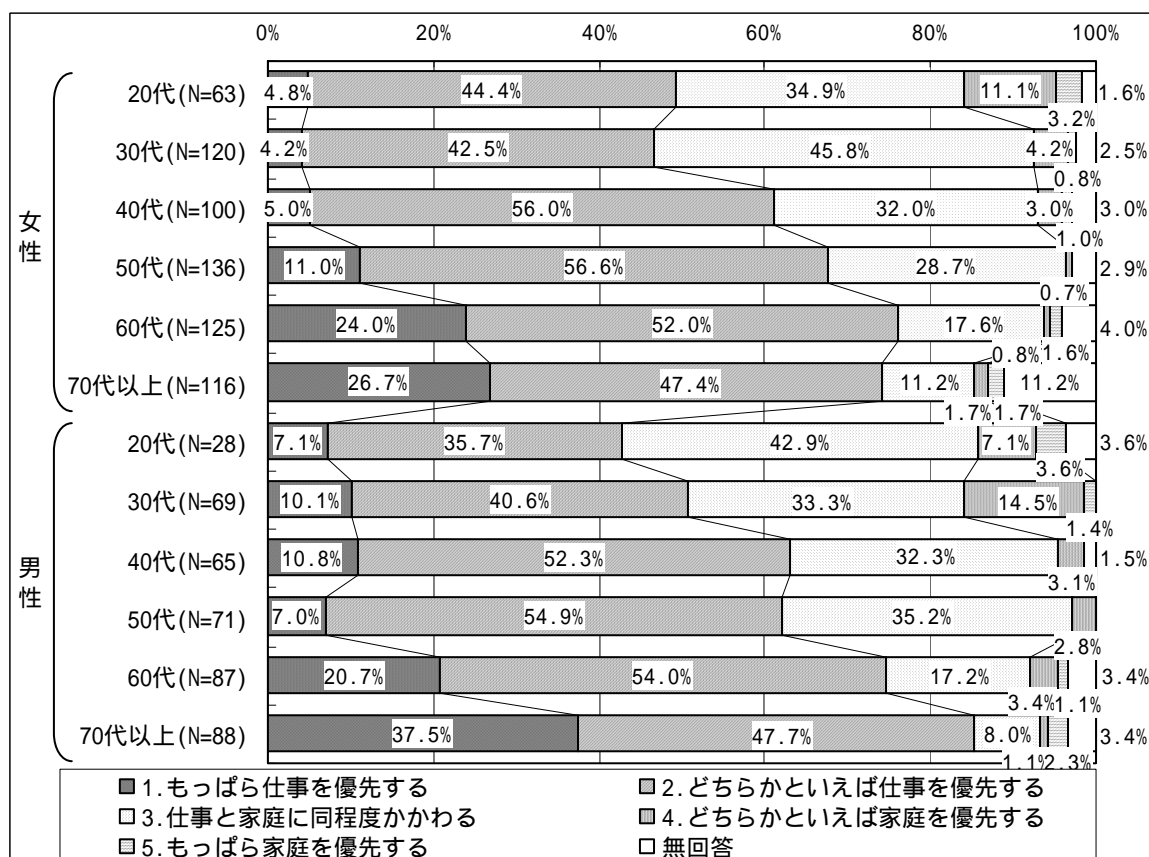


男性の関わり方については、全体で「どちらかといえば仕事を優先する」が49.3%と最も多く、次いで「仕事と家庭に同程度かかわる」が26.7%である。

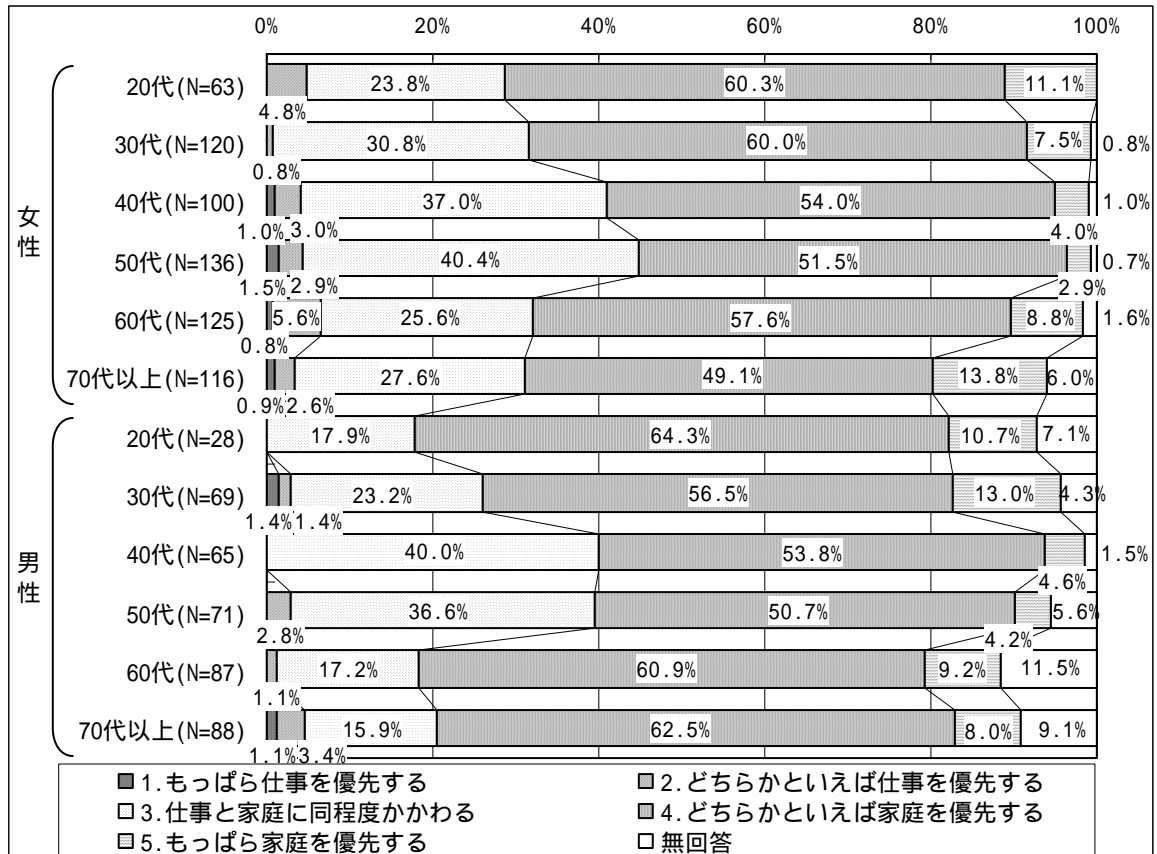
女性の関わり方については、全体で「どちらかといえば家庭を優先する」が55.9%と最も多く、次いで「仕事と家庭に同程度かかわる」が29.0%である。

## < 性別・年齢別 >

### 男性の関わり方



## 女性の関わり方



いて他の年代では「どちらかといえば仕事を優先する」が最も多く、4割から6割の回答である。女性の20代、男性の30代、男女ともに40代及び50代では「どちらかといえば仕事を優先する」に次いで「仕事と家庭に同程度かかわる」が多く、男女ともに60代、70代以上では「どちらかといえば仕事を優先する」に次いで「もっぱら仕事を優先する」が多い。

女性の関わり方については、性別・年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「どちらかといえば家庭を優先する」が最も多く、次いで「仕事と家庭に同程度かかわる」が多い。

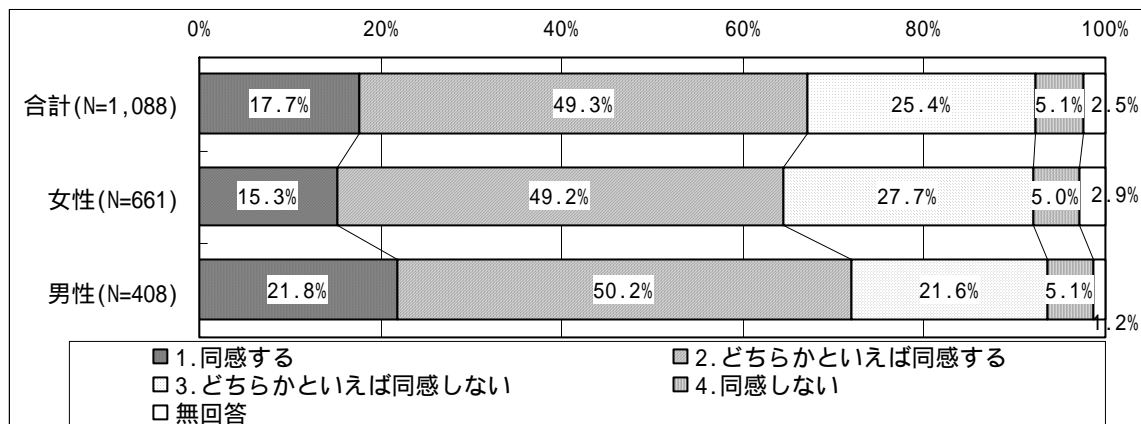
### ポイント

女性の関わり方はどちらかといえば家庭、男性の関わり方はどちらかといえば仕事が多く、性別役割分担意識が根強いことがうかがえる。



## (7) ワーク・ライフ・バランスの考え方への同意

問9 「男性が家庭生活を充実させ、家庭と仕事の両立を図るためには、仕事中心のライフスタイルを変える方がよい」という考え方がありますが、あなたは、この考え方に同意しますか、あるいは同意しませんか。あなたの考えに一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。



全体では、「同意する」と「どちらかといえば同意する」とを合わせて7割、「どちらかといえば同意しない」と「同意しない」とを合わせて3割となっている。

性別にみると、「同意する」は男性で21.8%であるのに対して、女性で15.3%と6.5ポイントの差がある。

( 8 ) 育児休業・介護休業の取得

問10 育児休業や介護休業についてうかがいます。

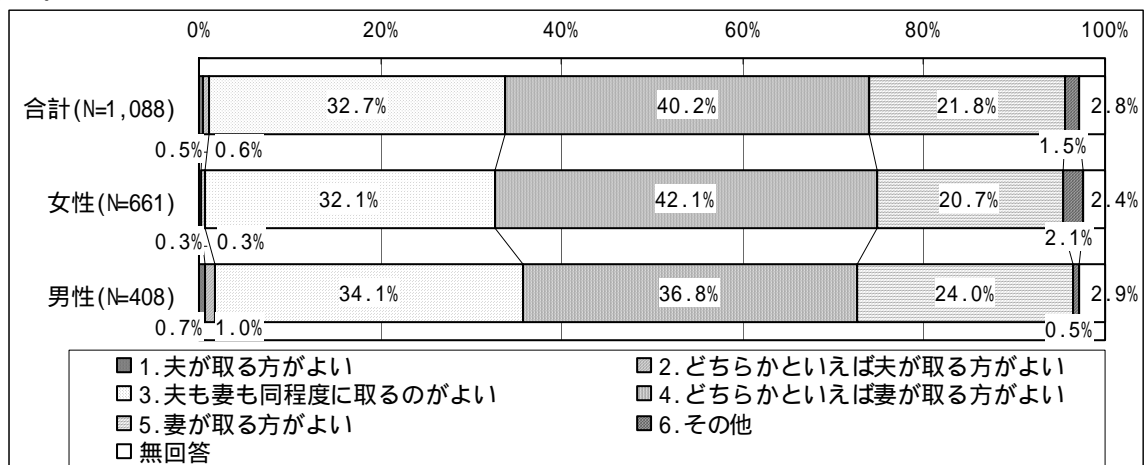
家庭で育児や介護が必要なとき、共に勤めのある夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。あなたの考えに一番近い選択肢の番号に1つをつけてください

(付問) 配偶者のいる方で、夫婦共に勤めの方にうかがいます。

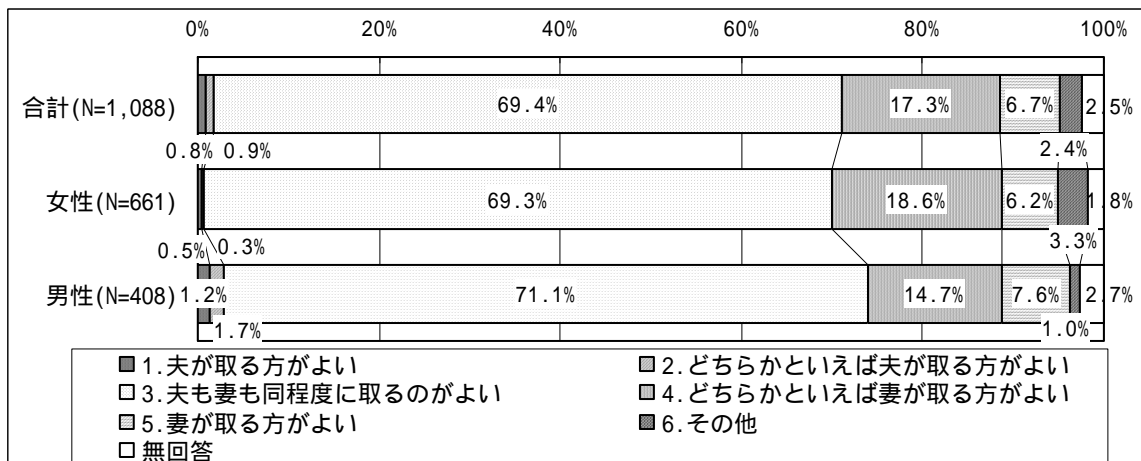
あなたの職場では、育児休業、介護休業を実際に取得することはできそうですか。または、取得できましたか。あてはまる選択肢の番号に1つをつけてください。

ア 育児休業・介護休業の取得方法

(ア) 育児休業



(イ) 介護休業

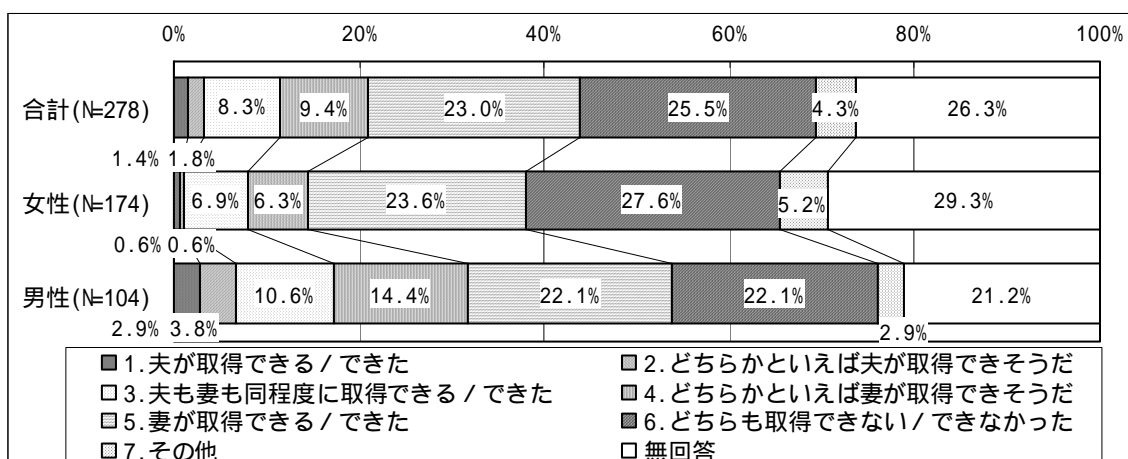


育児休業について、全体では、「どちらかといえば妻が取る方がよい」が40.2%と最も多く、次いで「夫も妻も同程度に取るのがよい」が32.7%である。

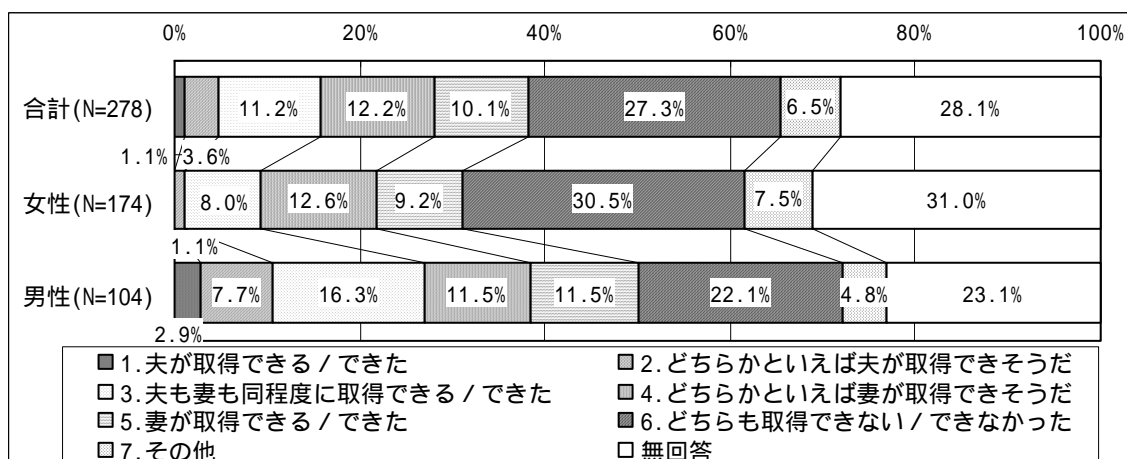
介護休業について、全体では、「夫も妻も同程度に取るのがよい」が69.4%と最も多く、次いで「どちらかといえば妻が取る方がよい」が17.3%である。

## イ 育児休業の取得実績・可能性

### (ア) 育児休業



### (イ) 介護休業



育児休業について、全体では、「どちらも取得できない / できなかった」が25.5%と最も多く、次いで「妻が取得できる / できた」が23.0%である。

介護休業について、全体では、「どちらも取得できない / できなかった」が27.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば妻が取得できそうだ」が12.2%である。

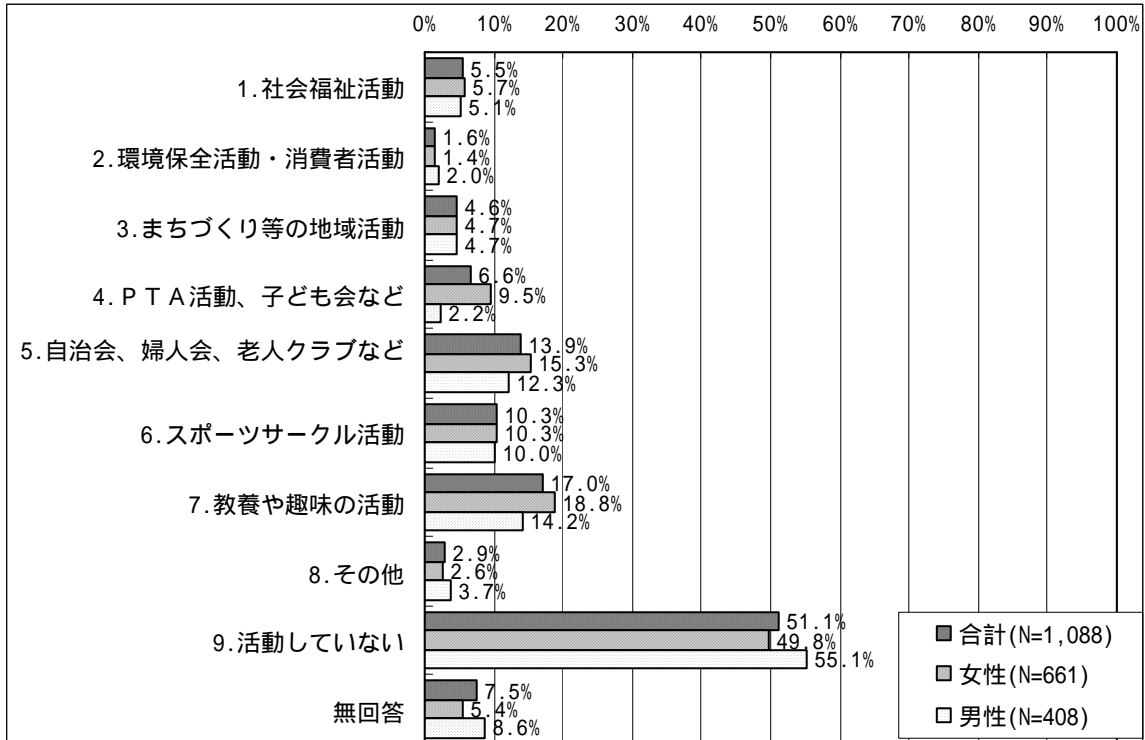
#### ポイント

ワーク・ライフ・バランスの考え方への同意は多く、また、介護休業の取得は「夫も妻も同程度に取るのがよい」が多いなど積極的であるものの、現実には取得できない実態があり、改善が望まれる。

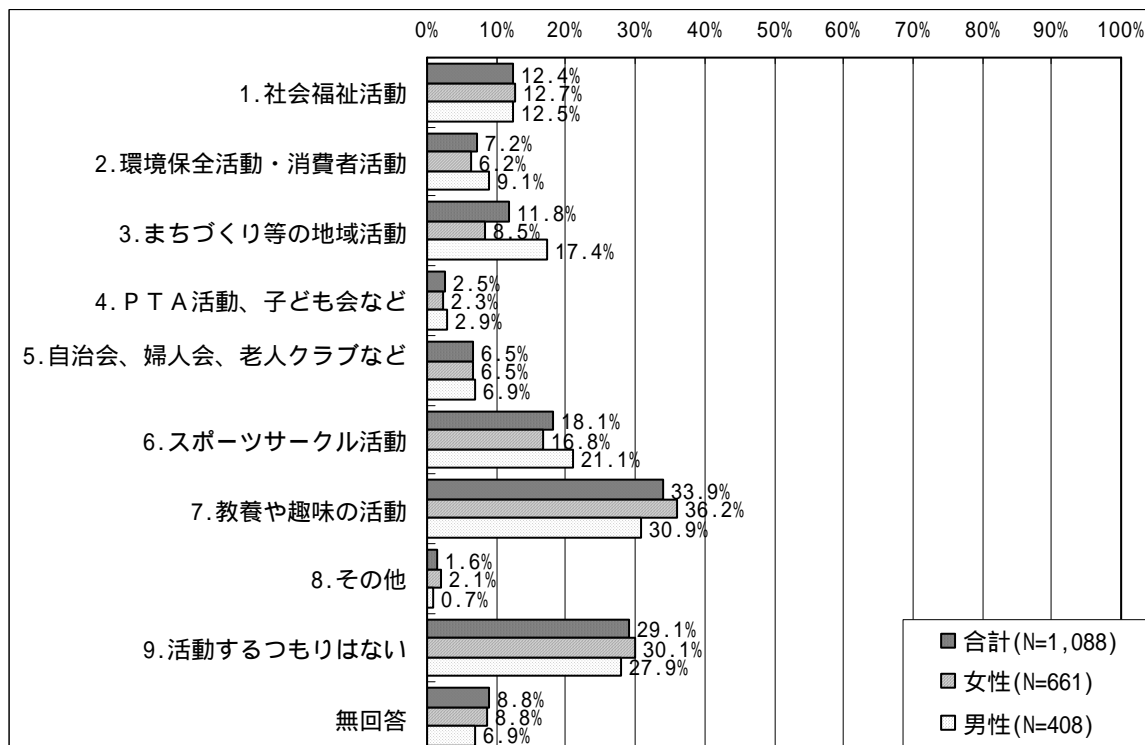
(9) 地域活動・グループ活動

問11 家事や仕事以外で、現在地域活動やグループ活動をされていますか。また、今後新たにしてみたいと思う地域活動やグループ活動はありますか。あてはまる選択肢の番号にすべてをつけてください。

現在している活動



今後新たにしてみたい活動



現在している活動については、全体で「活動していない」が51.1%と最も多い。活動別には、「教養や趣味の活動」、「自治会、婦人会、老人クラブなど」、「スポーツサークル活動」が1割を超えている。

性別にみると、男女ともに「活動していない」が最も多く、女性が49.8%、男性が55.1%と男性の方が5.3ポイント多い。

今後新たにしてみたい活動については、全体で「教養や趣味の活動」が33.9%と最も多く、次いで「活動するつもりはない」が29.1%となっている。

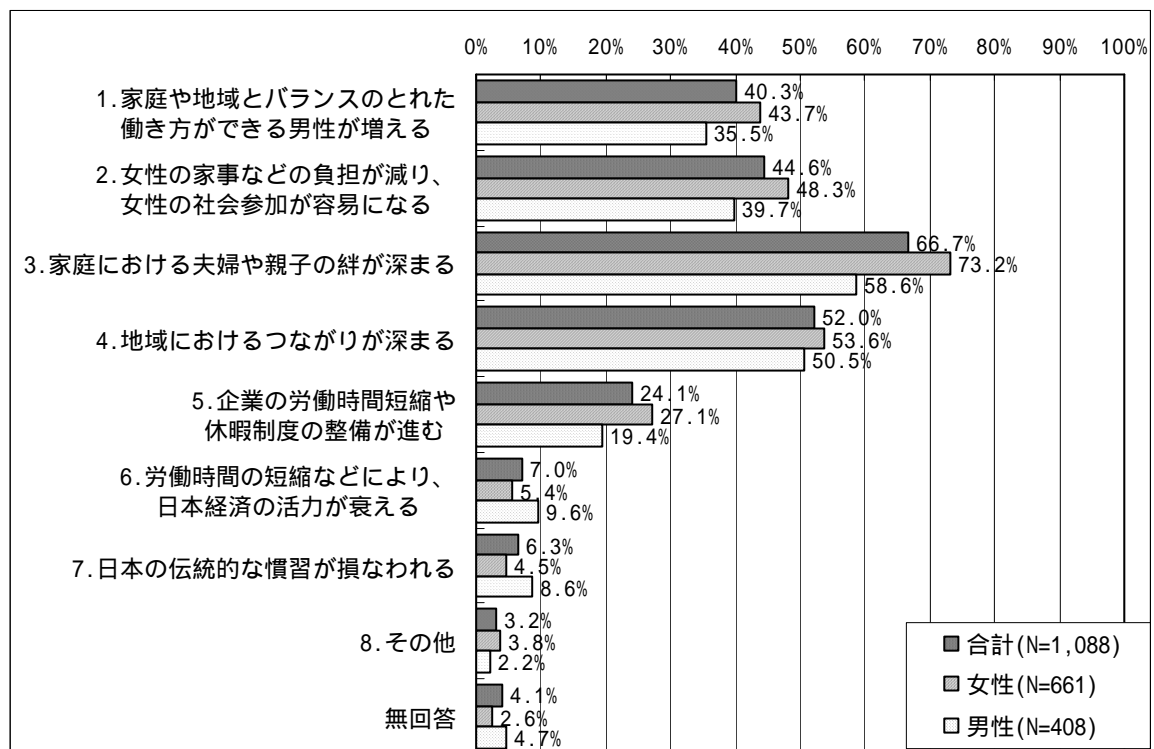
性別にみると、男女ともに「教養や趣味の活動」が最も多く、女性が36.2%、男性が30.9%となっている。「まちづくり等の地域活動」は男性が17.4%であるのに対して、女性が8.5%と8.9ポイントの差がある。

ポイント

現在、地域活動・グループ活動をしていない人が女性で5割、男性で6割であるが、今後については活動意欲がみられる。

(10) 男性の家事、地域活動等への参画による変化

問12 男性が、家事、子育てや教育、介護、地域活動などに参画した場合、どのような変化がもたらされると思いますか。あてはまる選択肢の番号にすべてをつけてください。



全体では、「家庭における夫婦や親子の絆が深まる」が66.7%と最も多く、次いで「地域におけるつながりが深まる」が52.0%、「女性の家事などの負担が減り、女性の社会参

加が容易になる」が 44.6%、「家庭や地域とバランスのとれた働き方ができる男性が増える」が 40.3%などとなっている。

性別にみると、男女ともに「家庭における夫婦や親子の絆が深まる」が最も多く、女性が 73.2%、男性が 58.6%と女性の方が 14.6 ポイント多い。

ポイント

男性の家事、地域活動等への参画を進めていくことで「家庭における夫婦や親子の絆が深まる」、「地域におけるつながりが深まる」などの変化が期待されている。また、全体的に女性の方が肯定的な評価をする傾向がある。

## 5 女性の生涯にわたる健康の確保

### (1) 女性の健康を守るために必要なこと

問19 女性は妊娠や出産など、ライフサイクルを通じて男性と異なる健康上の問題に直面します。その女性の健康を守るため、どのようなことが必要だと思いますか。それぞれの項目について、あなたの考えに一番近い選択肢の番号に1つをつけてください。

<項目> 下記グラフでは項目を要約

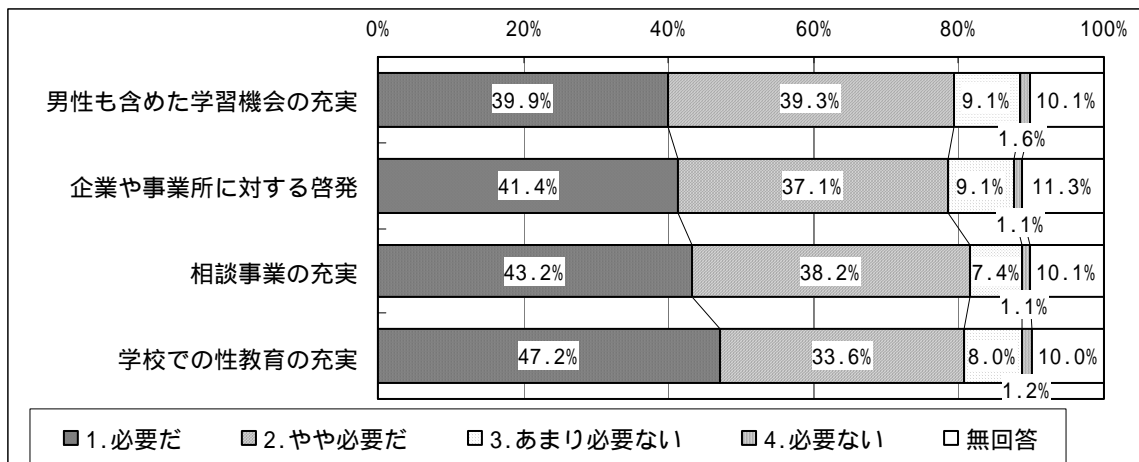
女性の健康についての男性も含めた学習機会の充実

女性の健康についての企業や事業所に対する啓発

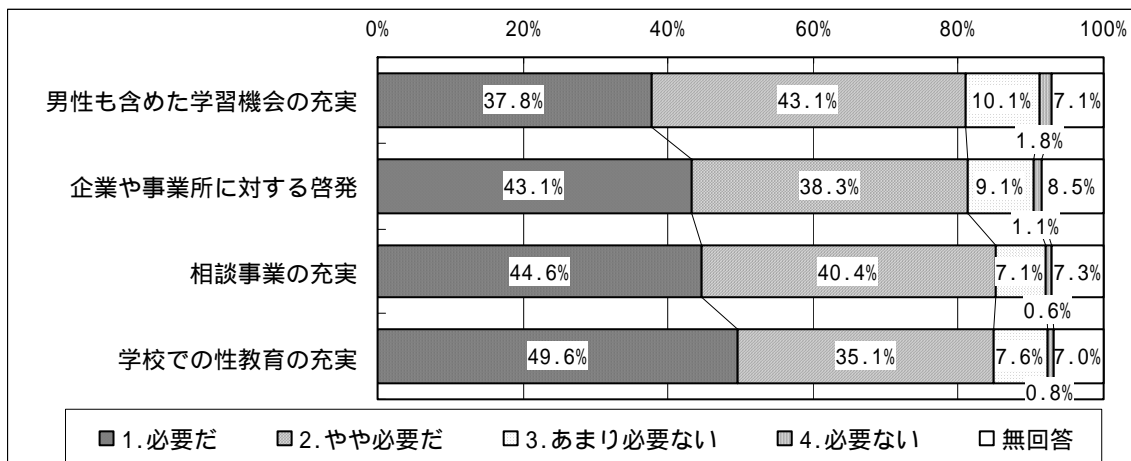
女性の健康についての相談事業の充実

学校での性教育の充実

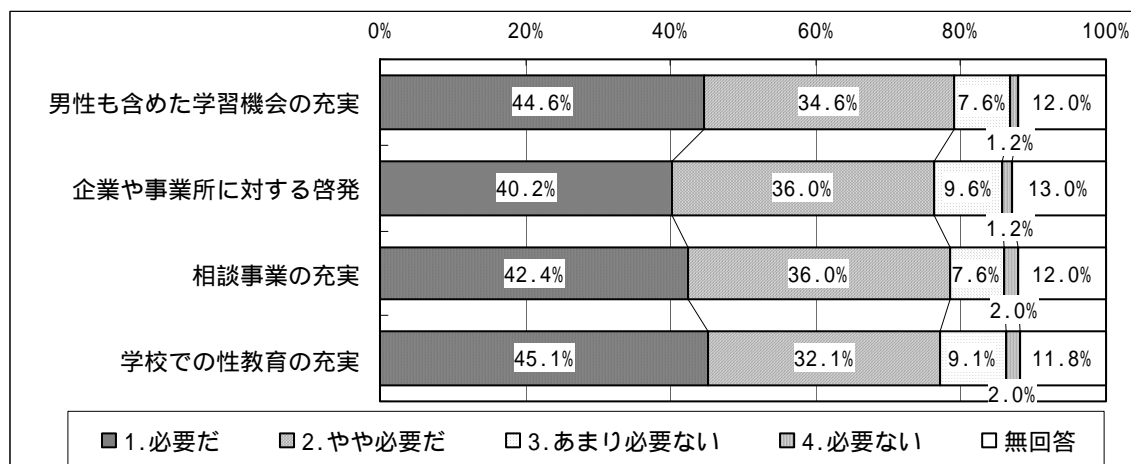
全体 (N=1,088)



女性 (N=661)



男性 (N=408)



全体では、「男性も含めた学習機会の充実」、「企業や事業所に対する啓発」、「相談事業の充実」、「学校での性教育の充実」のいずれも「必要だ」と「やや必要だ」を合わせて8割である。

性別にみると、「男性も含めた学習機会の充実」は「必要だ」が男性で44.6%であるのに対して、女性で37.8%と6.8ポイントの差がある。

ポイント

いずれの啓発も必要だとの意見が8割であり、今後も生涯を通じた女性の健康を支援するための取り組みを進める必要がある。





# 自由意見

## 1 記入状況

回収数 1,088 票のうち、自由意見の記入があったものは 194 票（17.8%）であった。女性は、回収数 661 票のうち 129 票（19.5%）、男性は回収数 408 票のうち 62 票（15.2%）に記入があった。

自由意見を内容別にみると、「施策に対する意見・期待」が 45 件、「男女の役割」が 37 件などとなっている。

表 4 - 1 性別年代別自由意見記入状況

		20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	計
女性	回収数	63	120	100	136	125	116	1	661
	記入数	10	23	23	30	21	22	0	129
	記入率	15.9%	19.2%	23.0%	22.1%	16.8%	19.0%	0.0%	19.5%
男性	回収数	28	69	65	71	87	88	0	408
	記入数	6	9	11	13	9	14	0	62
	記入率	21.4%	13.0%	16.9%	18.3%	10.3%	15.9%	-	15.2%
不明	回収数	0	0	0	0	0	1	18	19
	記入数	0	0	0	0	0	0	3	3
	記入率	-	-	-	-	-	0.0%	16.7%	15.8%
計	回収数	91	189	165	207	212	205	19	1,088
	記入数	16	32	34	43	30	36	3	194
	記入率	17.6%	16.9%	20.6%	20.8%	14.2%	17.6%	15.8%	17.8%

表 4 - 2 内容別自由意見記入数

		記入数（重複有）	記入比率
男女共同参画	施策に対する意見・期待	45	23.2%
	男女の役割	37	19.1%
	労働・職場	21	10.8%
	子育て	21	10.8%
	ワーク・ライフ・バランス	20	10.3%
	家庭生活	19	9.8%
	施策の周知	14	7.2%
	地域活動	4	2.1%
	その他	18	9.3%
アンケート		32	16.5%
その他		17	8.8%
計		194	100.0%

## 2 代表的な意見

### (1) 施策に対する意見・期待

男女にとらわれず、人間として何が出来るか、出来なかったにせよ、これからはどうすればやれるかを一人一人が身につけなければいけないと思います。会社も社会も、そのための能力アップに力を貸してほしいです。(女性・40代)

男性だから女性だからと特別扱い、特別視するのではなく、男性も女性も人それぞれが自分の能力を生かし、自分の希望する社会的ポジションで活躍し、貢献できる社会が理想と思う。そのための意識教育や法的仕組み、企業の人事、意識改革などを市政の中でも進めていって頂きたい。(男性・40代)

議会の中、市役所全体に女性の登用を。もっと女性の意見が汲み取られたら子どもやお年寄りが安心して住みやすい尼崎に変わるだろうと思います。(女性・50代)

### (2) 男女の役割

自分の中では色々と男女の考え方の違いについて、どうにか変わらないものかと思案していた。結婚して仕事から離れた時に、夫が妻に求める考えの古さが引っかかる所もあり、女は働いてはいけないのか？という疑問が多々出てきている状態です。(女性・30代)

私が育った時期はやはり男は男らしく、女は女らしくの時代でした。今もその気持ちは大切と思っています。でも、家庭を持って共働きでないと生活できない状態で妻もフルタイム仕事をしているにも関わらず、育児、家事すべて妻の仕事というのはいかがなものかと思います。(女性・50代)

男女にはその性により、明らかに役割があると考えます。但し、男は仕事、女は家庭という感覚はもはや時代に適合しないでしょう。(男性・50代)

### (3) 労働・職場

学校教育の場ではほぼ男女平等に教育されてきたにも関わらず、企業に就職した際、完全な役割分担(職種等)で男女は区別されていました。その後、雇用均等法等ができましたが、自分がすっかり「女性はそんなもの(サブ)」という意識に毒されていました。せっかく平等に教育を受けてきたのですから、そのままの意識で進んでいける社会であってほしいと思います。(女性・40代)

昨今の流れからですが、雇用均等法により女性も働きやすい世の中になりつつあると思います。男社会の職場にも女性の姿が見られるようになりましたが、男の中でも体力のある者・無い者、頭の良い人・そうでない人、適材適所で良いと私は思います。(男性・20代)

#### (4) 子育て

女一人で朝のミルク・オムツ替えからお風呂、寝かしつけまで毎日大変です。気力だけでは何にもならない。男の人の仕事を全体的にもっと早く終わって帰れるようにしたり、週1回でもいいから早く(夕方5時くらいには)帰れるようにしてほしい。男の人も育児に参加することによって、子供ののびのび育つと思うし、家族が一つになれる。(女性・30代)

生まれたての赤ちゃんには誰よりも母親が大切で、母親が仕事を休んで一緒にいてあげることが望ましいが、最終的には各個人の考え、判断によると思う。その判断による選択肢の幅が広がるように社会、行政に変化が出来れば良いと思う。(女性・30代)

#### (5) ワーク・ライフ・バランス

今、日本の男性が家事、育児に参加できる会社がありますか?若い人は夜中まで働いてサービス残業させられてくたくたになり帰宅し、朝早くから出勤しています。過労死を心配します。(女性・60代)

男女が平等に働き、家事・育児をするために必要なのはやはり「職場の環境」が一番大切だと思う。女性は産休や育休を取得できる企業が増えてきたが、男性の場合は、その制度があっても実際に産休・育休を取得するケースは少ない(ほとんどない)と思う。企業単位の取り組みではなく、国単位で取り組まなければならない。「強制的に取得させる」くらいでないと、なかなか自発的に取得する勇気のある男性は少ないと思う。(女性・30代)

#### (6) 家庭生活

男女共出来る事は積極的に何事も進んでするように心がけている。夫婦助け合っている事が一番。(女性・60代)

家庭では仕事をして帰っても、家事におわれる毎日に疲れを感じざるを得ません。男女共同とはいえ、一般的に家庭の中まで浸透するには長い時間がかかるのではと思います。(女性・50代)

#### (7) 施策の周知

市の条例、計画について全く存在すら知らなかった。今回のアンケートで少し調べてみようと思った。我々の市政に対する意識が薄いのか、市民へのアピールが足りないのか、いろいろ原因はあると思うが、知る機会が増えればと思う。(女性・40代)

今までこの「男女共同参画」について名前は聞いたことがあるが、具体的なことは分からなかった。毎月の広報などの配布物、ウェブサイトなど、どこにどう記載されているかも分からなかった(または見つけられなかった)。今回のアンケートで、何らかの意識を変えられればよいが、広報やウェブサイトなど啓発活動をよりよく進めていただければと思う。(男性・30代)

#### (8) 地域活動

私の住んでいる地域の色々な活動をしたいと思います。(女性・70代以上)

( 9 ) アンケート

こんなアンケートは初めてで、真剣に考えました。(女性・40代)

アンケート、意見を集めるのは簡単ですが、それを企画、実践する事の大変さを感じます。(男性・60代)